

学科	栄養学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養疫学(Bクラス)	2	後期	選択	いいえ	57

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①栄養疫学は管理栄養士必修科目であり、国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、勉強意欲関心が重要になる。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。</p> <p>③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p> <p>④授業中の学生たちの勉強意欲を高めるため、授業中の質問や討論を増やした。</p> <p>⑤授業中に論文を読み、議論する場を設けた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は78(±9.2)点であり、再試験後不合格者は2名であった。標準的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達した。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は上昇しており、次年度は成績を理想的レベル(平均点80点)まで上げる工夫が必要である。</p> <p>③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は86%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も93%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、管理栄養士必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断、態度に関し、目標は達成したが、理想的レベルまでは達していなかった。管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.2で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.1であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.1で、授業の内容はよかったが、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.0で低かったことが反省点である。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。

学生の意見として、聞き取りにくいところがあったという意見があり、次年度からは改善して行きたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面で課題は達成できたが、関心意欲、技能表現の面では課題を残した。今後、栄養疫学の疫学調査法の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。

授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行ってきたい。

講義スライド、配布物(授業の参考資料)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進度と内容説明について改善して行きたい。

学科	栄養学科
氏名	嶋村 美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会福祉概説(Aクラス)	2	後期	必修	いいえ	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>必修科目であるので、受講動機でも100/102人が必修科目であると答えている。①オリエンテーションの目的として、講義の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。②授業の実施に当たっては、できるだけ具体的な内容を含めて、説明を行った。普段かかわりの少ない社会福祉に関して興味や関心を広げるところから始めている。社会福祉とは何か、生活することに何が含まれているのか、どのような方たちが社会福祉を必要としているのか、ソーシャルワーカーへの理解などを含めて授業を展開している。栄養に携わる専門職が社会福祉を学ぶ意味についても時間をかけて説明して、学習の動機づけができるように心がけている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績評価について平均点は77.9点、インフルエンザによる追試1名である。概ね社会福祉全体の理解とそれぞれの学生が興味関心のある現在の日本の福祉的課題について整理することができていた。					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、栄養学科の必修科目として位置づけられている。管理栄養士を目指す学生の社会福祉に関する理解を促し、専門職としての連携を図る上での必要な知識であると思われる。学生の自己評価でも知識を確認修正したり新たに得ることの項目が一番評価点が高く、平均値は3.4であり内容的妥当性があると考えられる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価では、課題以外の取り組みがほとんどできておらず、図書館などの利用もほとんどないとの結果であり、次回からは文献紹介や具体的な勉強方法について、一方向での説明に終わらずに、学生とやりとりをしながら双方向の情報提供を組み込んで行こうと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

普段は社会福祉ではない栄養の学修をしている栄養学科の学生に向けて、社会で起きていることへの興味関心をより広げることができるような情報提供と考える時間を設けていき、授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して興味を持ち続けることへの動機づけができるのではないかなと思う。次回から、この点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。

学科	栄養学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護学	3	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、「専門基礎分野」における「社会環境と健康」に位置づけられており、栄養学科3年次後期科目で、選択科目である。看護の対象である人とその生活を理解し看護師の役割について学ぶために、健康段階・発達段階を踏まえた構成としている。オムニバス形式にて6名の担当教員で実施し、総論、小児看護、成人急性期看護、成人慢性期看護、老年看護、在宅看護、精神看護を通して、看護師の役割を学ぶことができるように構成している。そして、保健医療チームにおける専門職間の連携のあり方や栄養士と協働する専門職であることを意識した講義内容としている。</p> <p>②受講動機は、「単位数を確保する」が83.3%で最も多く、受講生が4年次生に多いことを反映していると考え。他は、「必修科目である」「資格取得に必要」「教員に勧められた」の16.7%であった。</p> <p>③毎回、講義に関連する内容の課題を課した。全員課題の提出をすることができていたが、ネットからの検索が多く見られた。課題に対して解説を加えながら、看護師の役割に興味関心を持ってもらえるように工夫を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は71.6点であった。内訳は、毎回の課題点30点中平均16.4点で、欠席回数が多いものほど点数が低い結果であった。最終レポートは70点中平均62.1(85%)点で概ね看護師の役割について理解していたと考えられる。DP別では、「知識・理解」72%、「思考・判断」67%、「関心・意欲」74%、「技能・表現」72%であり、全員が標準レベルに達したが、理想的なレベルに達したのは8名中1名と少なかった。その要因として日々の講義や課題に対する姿勢に関係していると考え。</p> <p>本科目は、選択科目である。ほとんどが4年生で「単位数の確保」を目的としているため、出席率100%はわずか2名で、73%が3名という状況である。講義では、栄養士と協働して働く専門職を意識し、実習での体験を聞き看護に結びつとところを解説しながら講義を展開した。栄養学科の学生が興味関心を持ち、理解ができるよう内容・方法の工夫を行った。本科目は6名の教員で担当するため、教員間の共通認識を図るために講義ファイルを回覧し、学生の学習状況について申し送りを行った。今後も継続していきたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP、カリキュラム上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、「専門基礎分野」における「社会環境と健康」に位置づけられており、栄養学科3年次後期科目で、選択科目である。ほとんどが4年生で「単位数の確保」を目的としているため、出席率も低く、動機づけが低いものと考え。最終レポートから考えると概ね内容的には妥当であると考え。</p> <p>② DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から「思考判断」の評価が他に比べ低い傾向にあった。栄養学科の学生が分かりやすい事例を使用するなどの工夫を行ってほしい。</p> <p>③ まとめ 以上から、方法論として検討は必要であるが内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価では、すべての項目で「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」で10割を占めている。受講人数が9名と少ないため、個別に質問をするなど皆で話す機会が多いため、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」において「まあまあそうだと思う」と回答が多かったと考える。

オムニバスの講義であるが、特に学生から一人の教員の講義を聴きたいという意見は聞かれていない。今後もそれぞれの専門的な内容について講義を行い看護師の役割について伝えていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は、選択科目であり、行動目標については概ね達成できたと考える。

シラバスでは、発達段階および健康段階別に順序性を考慮構成しているが、教員の実習等の理由にて順序を変更している。学生からは、順序の変更に伴う理解のしづらさなどの意見は聞かれていない。対策として、総論は必ず初回に組み入れ、看護の対象、看護師の役割と専門分野があることを伝え、その後、それぞれの専門分野について講義を行うことで、順序性の変更による分かりづらさの解決を図り、看護師の理解に繋げたい。

学科	栄養学科
氏名	清末 達人

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用生理学(Bクラス)	1	後期	必修	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ヒトは感覚情報を基に体性神経を駆使して臨機応変に次の行動を決定する。また自律神経系は、無意識下で内臓諸組織の生理機能を調整して生体の恒常性維持を行う。一方、もっと長い時間経過を経て器官・組織間の連携を行うのがホルモンを介した内分泌系による調節である。この科目では、これらの神経性および内分泌性の調節機能に焦点をあてて学習する。受講生は、高校での生物基礎、1年前期での解剖生理学を学習した上で、これらの高次生体調節機構について学ぶことになる。これらはまた、管理栄養士国家試験における重要項目であり、管理栄養士必修となっている。受講生の多くも管理栄養士必修だから受講したとしている。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートにおいて、「自分なりの目標を達成したか」という問いに「まあまあ達成した」以上の肯定的な回答が97.8%に達している。また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができたか」という問いに対する肯定的な回答が、それぞれ100.0%、96.7%であった。また「自分が学ぼうとしている専門分野で、必要となる技術を身につけることができたか」との問いに対する肯定的な評価も97.8%に達している。したがって、この科目で意図した教育目標は、ほぼ達成できたのではないかと考えられる。期末テストによる成績評価では、S,A,B,C,Dの度数は、34, 30, 22, 13, 0 となり、多くの学生がこの科目に積極的に関わったものと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は、1年前期の解剖生理学と併せて、栄養系の大学で、さらに専門的な医学系教科を学ぶための基礎知識を学習するのが目的と考えられる。受講した学生の受講動機と学習到達度の自己評価からみて、この点についての所期の目標は、ほぼ達成できたと考えている。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

この科目において学ぶ、「内分泌とホルモン」は、国家試験受験において重要な分野であるため、小テストを課すことにより、学生にある程度のストレスを与えた。その結果、課題が重すぎると感じたためか、かなりの成績不振者が小テストの段階で出てしまい、その後の授業への取り組みにおいて熱意が感じられなくなってしまった。もう少し、課題を緩めに設定する必要もあるかと感じている。また、理想を言えば、自らの意思で課題を設定し、自ら解決しようとするPBLのやり方が導入できればと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

国家試験受験まで、まだ十分な時間がある1年後期の段階では、内分泌腺とホルモンについての大まかな概要が理解できているかということを中心にして教育目標を立ててみた。ホルモンに関する小テストを2回実施したが、この課題に対してはほとんどの学生が積極的に取り組んだと思われる。今回身につけた知識が3年後まで、どの程度残っているかといえば、必ずしも十分残るとはいえないかもしれないが、国家試験受験に必要なきめ細かい知識の積み上げは、4年になってからの管理栄養士演習で十分可能であると認識している。

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生化学 I (Aクラス)	1	後期	必修	いいえ	68

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①生化学という科目の本質上、講義では、特に論理的思考を促すことに重点を置いている。1年時の履修科目である「生活の中の化学」ならびに「生化学 I」で学んだ内容との運動性を重視して講義を進めた。今回の受講動機は、「必修科目である」97.6%に集中していた。次いで「資格取得に必要である」18.4%、「単位数を確保する」18.8%など学習意欲を反映しない理由が続いた。一方、学習意欲や成績向上意欲を反映した「関心のある内容である」は3.2%、「GPAを上げる」は2.4%にとどまっている。苦手意識を持っている学生は、実際には最初から取り組んでいない(人並みに学習していない)だけで、本当に苦手であるかどうかも定かではない場合が多い。栄養学と生化学はその起源が同一という見方もあり、かつ国家試験受験資格取得に必須の科目でもある。好むと好まざるにかかわらず、栄養学を学ぶことを決意した以上は、生化学に正面から取り組むべきであることを説明し、正面から取り組んだ結果、十分な成績を修めた先輩の実例の紹介も行った。 ②毎年、キーポイントやキーワードをまとめた資料を作成・改訂し、配布している。講義の前後、あるいは試験前に目を通したうえで、学習に取り組むことを勧めている。 ③講義に用いるスライドは、前年のものに改訂を加えて用いた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成されなかった		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	再履修者を含めた受講者140名。最終成績の平均は65点、不合格者は38名であった。1年生の合格率は例年より有意に高かった。うち、優(80点以上)以上の成績を修めた学生は、35名であった。一方、50点未満での不合格者は22名であった。成績が高得点と低得点の両極端に分布している傾向にあった。授業の予習・復習が0または2回以下の学生が、それぞれ104名以上または約92であった。ほとんどの学生が普段からの予習・復習は特に行っていないが、試験前に学習することで、充分合格圏に達していたと考えられる。50点未満での不合格者は、予習・復習を行わず、試験前の学習も不足していたのではないかと考えられる(要するに完全な勉強不足)。試験問題は、基礎的知識(化合物や代謝経路の定義等)と問う問題、基礎的な思考力を要する問題を併せて9割以上、やや高度な思考力を要する問題を若干の割合で出題し、基礎問題だけでも合格点を達成できることを心掛けて作成した。合格者の点数の優劣は、主に基礎問題での得点率に依存していたように見受けられた。やや高度な思考力を要する問題の正解率は、全体を通して低かった。要するに全体にまじめではあるが、深く思考する姿勢をもった学生が少ないと考えられる。このことは、受講動機が「関心のある内容である」とした学生が極端に少ないことと関連があると考えられる。今後、いかにすべての学生に意欲を持って受講させるかが課題と考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPでの位置づけは、専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。生化学 I の講義内容は、大きく分けて「三大栄養素および核酸の構造と主な機能」、「遺伝情報の伝達と発現」、「代謝総論」および「(代謝各論として)解糖とピルビン酸の運命」から構成した。これらは、栄養学を生命科学として学んでいく上で、基礎中の基礎というべきなようであり、妥当なものと考ええる。 ②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。講義内容および試験問題は、知識理解、思考判断を問う内容に終始しており、前者に関しては、おおむね妥当な内容であったと考ええる。やや高度な思考力を要する問題は、意欲や関心を持って普段から学習に取り組む必要があり、得点率が決して高くなかったことは、今後の課題となる。 全体としては、おおむね妥当な内容であったと考ええる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.2であった。説明の仕方、講義資料やスライドの図表や文章は、よりわかりやすくなるように毎年見直しと改訂を加えているが、この作業を恒常的に続けることで、今後も改善を進める。特に重要な基礎知識、論理については、繰り返し説明するよう、心掛けた。次年度に向けては、思考判断の重要性をより具体的に示した上で、授業に参加するよう促していきたい。そのために、今まで以上に講義中に学生に指名もふくめて発言する機会を増やすことにする。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本年度は、合格率、平均点とも概ね満足のいくものであった。本年度の学生の受講態度は、1年生、再履修者ともに全体としては、高評価に値するものであった。このことは、高い合格率に寄与した要因の1つと考えられる。講義中または講義後に質問や発言をする学生は、比較的少なかった。学生が理解しにくい箇所や、説明の仕方など、講義に還元できる情報を出来るだけ多く得て、それらを講義にフィードバックしていくために、学生が発言、質問する機会を増やしていく工夫をしていきたい。

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
病理学(Aクラス)	1	後期	必修	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①病理学のように基礎医学に関する学習はほとんどの学生にとって初めて接する科目であると思うので、医学の専門用語については、できるだけ具体例を挙げて説明するようにした。</p> <p>②今回の受講動機をみると「必修科目である」が95.7%であるのに対し、「資格取得に必要である」と答えたものが12.8%と、2つの数値に大きな差があった。この科目が、管理栄養士国家試験の受験に必修であることは、最初の授業で全員に伝えているが、更に、強調するようにしたい。また、「関心のある内容である」と答えたものがわずか4.3%に留まっていたが、病理学・基礎医学の知識が、管理栄養士の実践の場でも重要であることを、できるだけ具体的な事例を挙げて、説明していきたい。</p> <p>③授業の最初に学習準備のため、オリエンテーションを行い、授業計画表を配布した。</p> <p>④後期の中頃に確認テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>試験成績の平均値(100点満点)は、Aクラス77.0点(±12.7)、Bクラス79.7点(±13.1)であり、本試験不合格者(60点未満)はAクラス6名、Bクラス4名であったが、再試験によって全員が合格した。成績の内訳は、S(90点以上)がAクラスで8名、Bクラスで17名、A(80～89点)がAクラスで17名、Bクラスで11名、B(70点～79点)がAクラス12名、Bクラス7名、C(60～69点)がAクラス7名、Bクラス10名、D(60点未満)がAクラス6名、Bクラス4名であった。クラス間の比較では、平均点ではそれほど差がないが、BクラスのS評価の人数がAクラスの2倍以上であった。昨年度との比較では、平均点はほぼ同様の結果であった。</p> <p>学生の授業評価アンケートにおいて、「到達度自己評価」は全項目で平均点が3点以上であるので、概ね教育目標を達成できていると考えている。特に、項目(2)の「知識の確認・修正および新知識の獲得」については3.5点と比較的高い評価であった。</p> <p>「学習量の評価」で、約3分の1の学生が30分以上の復習を1回以上実施しているが、十分とは言えない。復習課題として、練習問題および管理栄養士国家試験の過去問題および基礎栄養のまとめなどを配付しているが、なるべく早期に配付して、自学自習のたすけとなるようにしたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」の必修科目であるが、国家試験に「人体の構造と機能及び疾病」に出題される内容であり、その重要性は学生にしっかりと伝えている。期末試験の成績において、学生も良好な成績を修めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績はおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」において、項目(1)の「評価基準」、項目(2)の「学習の範囲・課題」および項目(3)の「説明の理解しやすさ」が3.4点と比較的高かった。学生の成績と併せて判断すると、授業の目標はおおむね達成できていると考える。
学生の自由記述で、「(授業以外の学習の)仕方がわからない」、「課題がなかった」という感想があったが、今後、「病理学・基礎医学のまとめ」、「練習問題」、「国家試験の過去問題」などの復習課題を早めに配付して、自習の助けとなるようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門教育科目・専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。ただ、予習・復習の時間が多くないことから分かるように、病理学・基礎医学の学習に対する興味・意欲は十分とはいえない。病理学・基礎医学と「栄養」との関連についてなるべく具体例を示すことによって、学生の関心を高めるようにしたい。

学科	栄養
氏名	田川 辰也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床生化学	2	後期	必修	いいえ	126

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①2年生になって、専門科目の履修が増加し、特に医学的知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な基礎的な医学知識および考え方を修得できるよう心がけた。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備ため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業の最初と最後に小テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習の進捗状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用するスライドのレジュメを昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p> <p>⑤学生の意見としては、わかりやすいという積極的な意見があった一方で、レジュメの穴埋めには否定的であった。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された		達成された

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は78(±12)点であり、本試験不合格者は11名、再試の不合格者は4名であった。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは50%を超えた。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は7点上昇し、本試験の不合格者は20名から11名に減少し、再試験受験者の不合格者も5名から4名に減少したことから、教育目標の達成は大幅に改善した。</p> <p>③学生による授業評価においては、「授業がわかりやすかった。」、など、ポジティブな意見をいただいた。今後とも、わかりやすいスライド、資料、授業に心がけるとともに、授業前後の小テストを続けていきたいと考える。</p> <p>以上から、教育目標は達成されていると考えられる。</p>
--	--

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。学生も復習に力を入れており、定期試験にて一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、知識判断、思考判断、技術表現、態度に関する達成度がすべて高かった。課題された領域はすでに内容を修正しており、すべての領域において成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.3、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.5と高かった。学生性の成績とを踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたいと考える。
②学生の意見としては、「よかった」など、好意的な意見があった。一方、レジュメの穴埋めには否定的な意見があったので、今後ともさらにわかりやすい授業になるよう改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

①専門基礎科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、実践科目である3年前期の「臨床栄養学実習Ⅰ」に引き継いでいく予定である。
②授業過程を振り返ってみたとき、授業の最初と最後に復習・確認の小テストを行ったことで、学生が検討を加える時間できた。予習課題の提示などで改善を図りつつ、さらなる改善に努めたい。
③以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、小テスト等で考える時間をとり、復習課題を意識的に提示するようにすることを続けていきたい。
④配布物(授業のスライドのレジュメなど)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に改善を行いたい。

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康体力評価論	4	後期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 運動生理学の基礎的知識の定着と基礎的測定法の理解を前提とした、測定の意義、測定方法の検討、測定された値の結果の解析方法を実際に測定しながら講義した。</p> <p>2. 数回の測定を行い、結果の分析、統計処理を学生に示範して行い、仮説の検証の実例から行い、データと統計処理結果を手渡し、その実演のレポートを作成させ、測定および解析の検証方法の基本的考え方を学習させた。</p> <p>3. 受講者は、自己のデータ及び受講者のデータから論文形式でレポートを作成し、書くレポートごとに個別的指導を行い、論理的考察方法の道筋を会得できるよう努めた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終成績の平均値は73(±13)点で、履修放棄した学生が1人いた。しかし、再試対象は0名であった。ほぼ全員が標準的レベルに達し、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達した者は5/6名と、83%と高値となり、目標達成ができたと考えられる。</p> <p>更に、目標別に見ると、知識の取得に関してはまあまあ理解できた100%、思考判断の取得はまあまあ思うが100%であった。また行動規範と職業選択の参考にまあまあなったという学生も100%であった。</p> <p>課題作成やノート作成整理も評価の一部としたことにより、予習、復習、調べることなどが、授業参加の条件となり、学習行動が当たり前となったように考える。ただ、管理栄養士国家試験を受験するものはおらず、卒業単位のための履修が多いことを考えると、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」は高いように思う。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であるが、「専門基礎科目」と「専門応用科目」をつなぐ要の位置にあり、必修である。授業準備の欄で指摘したように国家試験を受けないことを決めた学生も受講するなど、動機付けを工夫をする必要がある。本講の学生は一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的低かったが、思考判断として何を問うているか学生に伝わらなかった可能性を示している。昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、その領域の成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けたことから平均が3.3であった。事例を取り上げて検討をする機会を作ったが、じっくり考えてもらう時間は十分に与えることができなかった。復習の時間が想定より少なかったことも反省点である。次年度に向けては、第一に、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。

学生の意見として、配布物の記入箇所を工夫することで時間が作れるのではないかとというのがあった。これは取り入れていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門応用科目の入り口にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。授業過程を振り返って見たとき、事例をじっくり検討を加える時間がなかったため、予習課題の提示などで更に改善を図りたい。
以上から、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り考える時間をとるか、課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。また、内容の整理を行うことで、授業中に課題を行う時間を増やすようにしたい。
また、配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

学科	栄養学科
氏名	古田 吉史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品学Ⅰ(Bクラス)	1	後期	必修	いいえ	57

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①食品学Ⅰは2年生前期に実施される食品学Ⅱへと続く科目であり、管理栄養士の必須科目でもあるため、ほぼ全員の学生が受講している(受講動機からも読み取れる)。ただし、食品学Ⅱとは異なり食品学Ⅰはかなりサイエンス色が強く、難解な項目も多く含まれる。そのため、国家試験にもよく出題されるような重要なヶ所については時間を多くかけて説明し、それ以外の力所については深く掘り下げ過ぎることで学生達が拒絶反応をしめさないように説明することを心掛けた。</p> <p>②また、同時期に開講する食品学実験(食品に含まれる成分の化学特性について理解する)での実体験に講義内容を極力リンクさせることで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。</p> <p>③講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。</p> <p>④講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均点が83点、再試験対象者が8名(うち6名は再試験により合格、2名は他の再試験を優先したため試験を受けられず再履修)、理想的レベル(90点以上として試験を作成)が全体の34%であったこと、また自由記述の意見に「講義が分かりやすかった・たのしかった」等の記載が見られたことから、概ね「知識理解」と「意欲関心を引き出す」という観点において、当初の目標を達成することができたのではないかと考えられる。</p> <p>「思考判断」に関しては、学生の到達度自己評価における「課題を検討する力を得ることができた」や「的確に判断する力を得ることができた」の項目がどちらも中央値が4となっており、学生らが自身の能力をある程度評価していることが読み取れる。また、期末テストの思考判断を問う問題の平均正答率も8割を超えていたことから、概ね目標を達成することができたと考えらえる。</p> <p>また、次年度も今年度と同様に、トータルの成績の平均点が80点程度となるよう問題の難易度と出題範囲を調整したいと考えている。</p>					
<p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は必修の科目であり全員が受講。2名を除き(他の科目の再試験優先により再履修)受講した全ての学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 「知識理解」「思考判断」「意欲関心」の全ての項目において、達成度に問題はないと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方に関しては、(学生による意見討論や情報収集に重きを置くのではなく)講義中に如何に学生らが講義の内容に興味・関心を抱き、限られた時間の中でどれだけ多くの事柄を集中して学べるかということを重要視して講義に取り組んだ。そのために、穴埋め式の配布テキストを毎回学生に提供しているが、学生からの意見でも「楽しい講義で分かり易かった」等の意見が複数見られたこと、並びに授業の質評価における全ての項目の中央値が4であったことを鑑み、授業の進め方としては次年度もこの方式を採用していきたいと考えている。
また、「配布プリントの文字をもう少し大きくして欲しい」という意見については、次年度是非改善したい。同時に、どうしても記入スペースが小さくなってしまいうような配布プリントの力所については、指定教科書(テキスト)に直接アンダーラインをひかせる等の動作を盛り込むことで、視覚的にも学生らにより分かり易い講義となるよう工夫していきたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

基礎的知識の習得、意欲や関心・思考判断力の醸成という面で、概ね目的を達成することができた(しかし、他科目の再試験優先により2名の学生が再履修となってしまったのは、私にとっても学生本人達にとっても非常に残念な事であった)。
配布物への学生の意見については次年度に是非改善を図ると同時に、教科書に直接アンダーラインをひかせる動作を盛り込むこと等により、学生らにより分かり易い講義となるよう随時工夫していきたいと考えている。

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
加工食品機能論(Aクラス)	2	後期	必修	いいえ	62

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の受講動機をみると「必修科目である」99%、「資格取得に必要である」30%、「単位数を確保する」6%が主たる受講動機となっているが、「関心のある内容である」が10%と、他目と比べるとやや高いレベルにあるのは、加工食品に対する受講生の興味の現れだと思われる。</p> <p>②昨年度までと同様、教科書を中心にして、補足事項や理解の難しい部分を要領よくまとめたプリントを利用しながら授業を進めることによって理解を深め、記憶する要点を示して学習の便宜を図った。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとってかなりウエイトの重い重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については、特に時間をかけて解説を行っている。また、授業評価を甘くしてしまうと、そのまま国家試験の合格率に悪影響が出てしまうので、手が抜けにくい科目である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験合格者は63名(48%)、再試験合格者は受験者54名中45名で(82%)であった。本試と再試を総合すると、受験者131名中108名(82%)が単位を取得した。本試験の出来・不出来は、これまで試験日程に大きく左右されてきたことから、達成度については本試験と再試験の合格率で判断すべき科目である。その判断に年度差が生じないように、今回を含めてこれまでの試験問題を同一のもので実施してきている。本科目は、難易度の高い科目であるが、今年度の最終合格率はかなり高く、理想的レベルに達していた。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」において評価項目10項目中9項目について中央値を0.3～0.5ポイント超えており、大変良い自己評価が得られたことは喜ばしい。評価項目(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができる」のみ3.0で、中央値と同じであったが、この評価項目については本科目で到達を目指したのではないので改善措置を講ずる必要はないものと考えた。評価項目(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」がもっとも評価が高く3.5ポイントであった。これは、本科目が目指している到達目標のなかでもっとも重視しているものであり、満足行ける結果が得られた。「授業の質」評価については、5項目の評価項目中4項目において中央値を0.1～0.4ポイント上回った。「評価基準が明らかであった」項目で3.4ポイントが得られており、授業でもっとも気配りした点がちんと評価された。「説明は理解しやすいものであった」についても3.4ポイントが得られており、授業の改善効果が得られた。「参加する機会が作られていた」項目で最も低い評価であるものの中央値と同じ3.0が得られたが、これは授業目的から外れる評価項目であるため、特に今後の改善措置をとる必要がないものである。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「卒業必須」かつ「国家試験受験資格取得に必須」であり、受講生は仕方なく受講することになり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。今回は、例年と比べ、また他科目と比べて、授業への関心度がもっとも高めであったが、この課題により応えることができるように工夫し(就職後)にどう結び付くかの解説を必要に応じて加える)、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から見て「知識理解」「思考判断」「意欲関心」について十分満足いける結果が得られた。また、例年に比較して、成績が良いことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本科目は「卒業必須」かつ「国家試験受験資格取得に必須」であり、受講生は仕方なく受講することになり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し(就職後はどう結び付くかの解説を必要に応じて加える)、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性

成績評価から見て「知識理解」「思考判断」「意欲関心」について十分満足いける結果が得られた。また、例年に比較して、成績が良いことから、内容的には妥当であったと考える。

③まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

①基礎科目のなかでも「食品学」や「調理学」をベースにした応用に近い本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。

②授業で取り上げる「加工食品」の種類についてもう少し幅を広げる時間が必要である。講義内容が膨大であるので、課題などで対処法を検討したい。

③配布物に対する学生の意見は取り入れ、次年度に改善を行いたい。

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
調理学(Aクラス)	1	後期	必修	はい	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①授業の始まりに、今日の講義内容についてまず「今日のポイント」を説明し、それから話を始めた。 ②1枚のスライドの文字を大きく見やすくし、説明がわかりやすいようにした(印刷物も同様) ③受講動機は必修科目であり、資格取得に必要な科目であるため、具体例をあげ、関心を持つように心がけた。 ④章ごとに、国試に出た実際の問題を提示し、出題内容や出題傾向を説明し覚えるポイントとした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。						
<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品衛生学(Bクラス)	2	後期	必修	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の受講動機をみると「必修科目である」99%、「資格取得に必要である」31%、「単位数を確保する」9.5%が主たる受講動機となっており、「関心のある内容である」は6%と極めて低いレベルに留まっている。授業を通じて、できるだけ興味と関心を引きつけるようにし務めた。</p> <p>②昨年度までと同様、教科書を要領よくまとめたプリントを中心に授業を進めることによって理解を深め、記憶する要点を示して学習の便宜を図った。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとってかなりウエイトの重い重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については、特に時間をかけて解説を行っている。また、授業評価を甘くしてしまうと、そのまま国家試験の合格率に悪影響が出てしまうので、手が抜けない科目である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験合格者は51名(46%)、再試験合格者は受験者64名中51名で(80%)であった。本試と再試を総合すると、受験者129名中102名(79%)が単位を取得した。本試験の出来・不出来は、これまで試験日程に大きく左右されてきたことから、達成度については本試験と再試験の合格率で判断すべき科目である。その判断に年度差が生じないように、今回を含めてこれまでの試験問題を同一のもので実施してきている。本科目は、難易度の高い科目であるが、今年度の最終合格率はかなり高く、理想的レベルに達していた。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」において評価項目10項目中9項目について中央値を0.1～0.5ポイント超えており、大変良い自己評価が得られたことは喜ばしい。評価項目(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができる」のみ2.8で、中央値を0.2ポイント下回ったが、この評価項目については本科目で到達を目指したものではないので改善措置を講ずる必要はないものと考え。評価項目(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」がもっとも評価が高く3.5ポイントであった。これは、本科目が目指している到達目標のなかでもっとも重視しているものであり、満足行ける結果が得られた。「授業の質」評価については、5項目の評価項目中3項目において中央値を0.3～0.4ポイント上回った。「評価基準が明らかであった」項目で3.4ポイントが得られており、授業でもっとも気配りした点がきちんと評価された。「参加する機会が作られていた」項目で最も低い評価2.7が得られたが、これは授業目的から外れる評価項目であるため、特に今後の改善措置をとる必要がないものである。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「卒業必須」かつ「国家試験受験資格取得に必須」であり、受講生は仕方なく受講することになり、受講生の意欲をどう醸し出すかの動機付けに苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫(就職後にどう結び付くかの解説を必要に応じて加える)、学生も一定の成績を取めていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から見て「知識理解」「思考判断」「意欲関心」について十分満足いける結果が得られた。また、例年に比較して、成績が良いことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①配布物が多いため、配布された順番がわからなくなる学生が観られたので、この点を改良したい。具体的には、配布物に配布した順番を示す番号をつけて、最終的に配布物一覧表を渡すようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①基礎科目のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。

②「食中毒」についてもう少し理解を深めさせるために時間が必要である。講義内容が膨大であるので、課題などで対処法を検討したい。

③配布物に対する学生の意見は取り入れ、次年度に改善を行いたい。

④122教室は、スライドの映像が暗い、マイクの明瞭度がかなり低い、教室の前方と後方の温度差が激しい、などの苦情が上がっている。苦情の内容的に、授業の理解度に大きく影響する内容であるため、今後、122以外の教室を使用するようにしたい。

学科	栄養学科
氏名	森田 洋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品の官能評価・鑑別論演習	2	通年	選択	いいえ	105

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義は食品の鑑別論というテーマで栄養学科の学生にとって必要とされる食品に関する幅広い専門的分野を取り扱っていることから、他の講義で取り扱っている分野と横断的な部分についても丁寧にその関係について解説を行うことで、わかりやすい授業運営に心がけながら授業準備を行った。また毎回、コメントカードに講義の感想や質問があれば質問内容を記入させ、次回の講義で質問内容に答えるなどして、学生の理解度と学習意欲を増すための工夫を行った。更に適宜、難易度の高い分野や試験直前には演習問題を実施し、学習状況の確認を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講生のうち、ほとんどの受講生が「秀」あるいは「優」の成績であった。また授業アンケートでも好意的な意見が大勢を占め、教育目標としては大いに達成できたものとする。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は栄養学科の専門科目としての位置づけとなる。多くの受講生が自分なりの目標を達成したと答えたことから、本科目の内容的妥当性には問題ないものと思われる。また食品の鑑別に係る様々な事象を理解する視点や考え方を得ることができたと答えた受講生が平均値で3.8と最も高く、他の講義で取り扱っている分野と横断的な部分についても丁寧にその関係について解説してきた成果が表れているものと解釈している。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価については概ね良好な結果であったが、学習量の評価で事前学習、事後学習をしている学生が少なかった。アンケートの自由記入欄を見ると「他の課題やレポートに追われて時間がなかった」という意見が目立ち、次年度以降は事前学習、事後学習を効率的にどのように行うか、具体的に学生に対してアドバイスができればと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

教育目標、最終成績評価、学生による自己評価のいずれも専門科目としての役割を十分に達成していると思われる。次年度は効率的に事前学習・事後学習を行うためのアドバイスができればと考えている。

学科	栄養学科
氏名	古田 吉史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品流通・消費論	2	後期	選択	いいえ	108

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①食品流通・消費論は、フードスペシャリスト資格認定試験の必須科目であり、資格取得を目指す学生や資格に関心のある学生が多く受講している(学生の受講動機からも読み取れる)。また、単純に内容に関心があるからという学生及び単位数の確保のためという学生もそれぞれ1割程度見受けられた。さらに、本科目は食品の流通と消費の場を深く掘り下げた内容で、栄養士養成科目の中でも非常に特異的な科目である。そのため、まず学生らに科目の内容自体への関心度を高めてもらうということ、次に馴染みのない分野の内容を如何に学生らに分かり易く伝えることができるか、というこの2点を心掛け講義に臨んだ。</p> <p>②講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。</p> <p>③講義終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。</p> <p>④食を取り巻く諸問題への学生らの興味・関心を高めるためにレポート課題を課した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均点が87点、再試験対象者が0名で、理想的レベル(90点以上として試験を作成)が全体の46%であったこと、また学生の到達度自己評価における知識を新たに得ることができた項目の中央値が4であったこと、さらに教員への意見の欄に「説明が分かりやすかった」等の記載が多く見られたことから、概ね「知識理解」の面において当初の目標を達成することができたのではないかと考えられる。</p> <p>しかしながら、(好ましいことではあるが)平均点が87点というのは少し高すぎるというのが正直な印象である。次年度は、平均点が80点程度となるよう、問題の難易度と出題範囲を工夫したいと考えている。また、学生の到達度自己評価における専門分野についての学びを深めたいという意欲を持つことができた項目の中央値が今回は3であったが、次年度は4となるように学生らが関心を抱く食品関連の時事の話題を講義の中に多く織り交ぜていきたいと思う。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は専門の選択科目であり、i フードスペシャリスト資格の取得を目指す学生や ii 資格取得に関心を持っている学生らが受講している。受講した全ての学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 「知識・理解」の達成度について、学生の到達度自己評価および最終の成績評価から問題はないと考えられる。しかし、現在のところ本科目はDP上の「知識・理解」にしか該当していないが、本科目では食を取り巻く諸問題への学生らの興味・関心を高めるためのレポート課題の提出を求めているため、DP-3の「関心・意欲」にも該当すると考えられる。そのため、次年度は該当DPの見直しを図りたいと考えている。</p> <p>③まとめ 上記②のように、本科目については次年度、該当DPの多少の見直しを図る。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方に関しては、穴埋め式の配布テキストを毎回学生に提供しているが、学生からの意見で「説明が分かりやすかった」「プリントが見やすかった」等の意見が見られたこと、並びに授業の質評価においても「説明は理解しやすいものであった」の項目の中央値が4であったことから、次年度も引き続きこの方式を採用していきたいと考えている。

また、今年度の図書館やインターネット等の情報を学修に利用した学生の数は全体の30%であった。次年度はこの利用率をさらに増やすために、レポート課題のテーマの内容を若干工夫したいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

知識の習得と理解という面では、概ね目的を達成することができた。
次年度は、上記の5に示したようにDP該当カ所の若干の見直しと、上記6に示したようにレポート課題のテーマの内容を工夫したい。

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人体の構造と機能総合実習(Bクラス)	1	後期	選択	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は一年後期の選択科目であり、内容は、担当教員である尾上および清末の専門である生化学および生理学の初学者向けの実習と実験である。今回の受講動機をみると「資格取得に必要である」と答えたものが76.3%と飛び抜けて多く、次いで「単位数を確保する」が23.8%であった。また、「関心のある内容である」を受講動機とする学生が、16.3%と前二者につづいて比較的多かった。尾上および清末は、同時期(一年後期)に、それぞれ生化学Ⅰおよび生化学の講義(座学)を行っているが、それらにおいて「関心のある内容である」を受講動機とする学生は、それぞれ3.2%および9.3%と低い。座学と比較して「関心のある内容である」と答えたものが多いことは、興味深い結果と考えられる。解剖生理学、生化学の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でも重要であり、意欲的に学習に取り組むことを本実習を通して啓蒙することが出来るように工夫していきたい。</p> <p>②解剖生理、生化学などの基礎科目は、栄養学科学生の苦手とする科目であるが、座学で並行して学んだ内容をただ単に丸暗記するのではなく、関連する実習を通してからだのしくみを理解し、将来の管理栄養士としての実践活動に役立てることを念頭において本科目を構築している。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>成績の平均点は75点で、全員合格した。80点以上のものが12名、70点～79点が78名で、70点以上が全体の91%であった。</p> <p>学生の授業評価アンケートにて、「到達度自己評価」では、全項目で平均が3点以上であるので、概ね教育目標を達成できていると考えている。特に、項目(2)の「知識の確認・修正および新知識の獲得」については3.6点と比較的高い評価であった。</p> <p>成績評価は、レポートおよび実習への取り組み(「その他」の項)で行ったが、レポートの点数がほとんどの学生で比較的低かった。これは、実験で観察された事実やデータの客観的、論理的解釈や考察が不十分であることがほとんどの原因であった。また、「学習量の評価」で、45%前後の学生しか30分以上の予習および復習を複数回実施していない。座学と異なり、より実践的な状況に近い本科目の様な実習に対する意欲・関心の啓発の達成度は、やや不十分であると考えている。</p>					
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、
インターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」において、項目(1)の「評価基準」、項目(2)の「学習の範囲・課題」および項目(3)の「説明の理解しやすさ」は、それぞれ3.8、3.8、3.7であった。解剖生理、生化学などの基礎科目は、栄養学科学生の苦手とする科目であるので、より一層わかりやすい説明を心掛けていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門教育科目・専門分野にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識を生きた知識として実践現場に活かせるように、できるだけ座学の内容および身の回りの事例に関連付けながら実習を進めていく必要がある。

学科	栄養学科
氏名	古田 吉史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品学実験(Bクラス)	1	後期	必修	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①食品学実験は必修科目であるため1年生の全員が受講している(受講動機からも読み取れる)。同時期開講の食品学Ⅰの内容を実体験を通して具体的に学ぶ、及び食品学実験は学生らが体験する最初の化学実験であるため、実験の心得や器具・機器の取り扱いの初歩について学ぶ、ことに重点を置き授業に臨んだ。</p> <p>②食品学Ⅰの講義内容を各実験の解説時に極力リンクさせること、並びに学生らの記憶が薄れないよう各項目毎に適時レポートを提出させることで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。</p> <p>③提出されたレポートの実験結果や考察の不備・間違い等に関しては、翌週の実験冒頭で解説を行い、学生らの理解が正しく深まるように努めた。</p> <p>④講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	再試験対象者が0名で理想的レベル(90点以上としてレポート試験を評価)が全体の85%であったこと、また学生による到達度自己評価のほぼ全ての項目の中央値が4であったことから、概ね当初の目標を達成できたのではないかと考えられる。(担当教員への意見が全く無かったことは残念である)					
<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は必修の科目であり全員が受講。受講した全ての学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 現在のところ、本科目はDP上の「知識理解」にしか該当していないが、実験レポートの提出を求めており、その中には結果・考察も含まれていることから、DP-2の「思考判断」にも該当すると考えられる。そのため、次年度は該当DPの見直しを図りたいと考えている。</p> <p>③まとめ 上記②のように、本科目については次年度、該当DPの多少の見直しを図る。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方に関しては、授業の質評価において全ての項目の中央値が4であったことから、次年度も今年度とほぼ同様な形式で進めていきたいと考えている。しかしながら、今回の授業評価においては、今後の授業に最も参考にした担当教員への意見の記述が全く無かったため、少しでも学生らの本音を聞き出すために、次年度は良い悪いどちらにしても何か気づいたことがあれば何でも記述して欲しいと、学生らに伝えたいと考えている。
(化学実験自体があまり好きではない・得意ではない・計算がよく分からない等の意見が少なからずあるのではないかとされるため・・・)
また、各項目毎のレポートについては、一部ポイントがズレた又は誤った考察等が見られたが、これは恐らくこちらの説明不足もその要因の一つとして考えられるため、次年度はこの点を改善したい。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお願いします。

総合的に判断して、概ね目的を達成することができた。
次年度は、上記の5に示したようにDP該当カ所の若干の見直しと、上記6に示したように授業評価アンケートの取り方(学生への説明)に改善を加えたい。

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康情報処理実習(Bクラス)	2	後期	必修	いいえ	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は2年次後期必須の実習科目で履修生は最履修生5名を含め115名である。従って受講動機は必須科目である97.1%、資格取得に必要である19.6%であった。</p> <p>授業の実施にあたり大切にしていることは、卒業後の自信に繋がるように目標を高く設定し、卒業後に利用することを想定し、栄養調査・分析に必要な統計処理の課題を設定したことである。</p> <p>「(4) 授業の課題以外に授業に取り組みましたか」の問いに、していないと回答した学生は82名(76%)だった。その理由にコメントを記載した学生は8名で、「学習する理由がわからない」1名、「Excelの統計ツールが一人では使いこなせない」1名、残り6名は「他の課題が多くて忙しく、時間がない」であった。</p> <p>2年後期から3年にかけて、月曜の1時間目から金曜の5時間目まで、必須科目や実験実習科目が詰まっており、教員の目から見ても、物理的に時間がない様子で、他科目のレポート提出で徹夜をしたという学生も少なくなかった。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>成績の平均は71.1点で、評価割合は以下の通りである。 A:4% B:14% C:37% D:35% E:10%</p> <p>授業評価の到達度自己評価は以下の通りである。 1と2 : 3 : 4と5 9% : 62%: 29% (2) 知識を確認、修正したり、新たに得ることができた 13% : 69%: 19% (4) 自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることが出来た 13% : 70%: 17% (5) 自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた 14% : 63%: 21% (7) 自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた 19% : 63%: 19% (8) コミュニケーション力や表現力を高めることができた</p> <p>本科目に関連DPの達成度自己評価をみると、3から5の評価割合が80%以上あることから教育目標は達成されたと考える。</p>					
* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は専門基礎分野に属し、臨床での栄養学研究、公衆栄養分野での栄養調査に必要な統計処理を学ぶ内容となっている。</p> <p>カリキュラムポリシーでは、「…専門基礎分野の科目を通して、幅広い教養を身につけるとともに、大学で栄養学を学ぶ目的を明確にする」と記載されている。</p> <p>授業評価の到達度自己評価は以下の通りであり、本科目の位置付けからみた内容は妥当なものだと考えている。 1と2 : 3 : 4と5 19% : 69%: 11% (6) 自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことが出来た</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

自由記述のコメント16名中、11名のコメントは「説明がはやい、授業の進め方がはやい」というものであった。
本科目は専門基礎科目であり、例年管理栄養士国家試験受験資格のある学生は全体の約8割程度であることから進め方は現状でも良しと思えるが、管理栄養士必須科目ではなく、卒業必須科目であることを踏まえ、2016年度からは、1年次の「現代社会と統計」から、管理栄養士向けの統計学のテキストを使用し、2年間同じ教科書を使って記述統計から推測統計までを学ぶように授業計画を立てている。なお、選択科目の「現代社会と統計」の授業で扱う記述統計は、高校数学で学ぶ「データの分析」の復習になっている。加えて、他科目のレポートなどで自学自習する時間が取れない現状を踏まえ、演習課題(授業内容)を減らそうと考えている。また、栄養学研究や栄養調査の中でどのように統計学が使われているのかを知るために、2016年度からは図書館の協力を得て、文献検索演習を実施する予定である。

学生2名のコメントに「授業中にコロコロで掃除をしている」という指摘があった。カーペット敷きの演習室は冬場空気が乾燥し、空調により毛糸の屑や髪の毛等が舞いとても誇りっぽい。声が擦れる、目が充血する、咳が出るなどの症状を予防するために、コードレスの掃除機が納品される迄の間、ラウンドする際に粘着テープで床を掃除していた。今は授業前に掃除機を掛けている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

授業評価の到達度自己評価の中で、目標達成について20%がそう思わないと回答している。原因の一つとして、授業最初のオリエンテーションでのシラバスの説明が不十分だったことが考えられる。2016年度は時間をかけて、学生が自身の行動目標を確認できる時間を設けたいと考えている。

1と2 : 3 : 4と5
20% : 67%: 13% (1) 自分なりの目標を達成した

本科目は栄養学研究および栄養調査における統計処理を学ぶ内容となっている。現在は卒業必須科目となっているが、例年管理栄養士国家試験を受験する学生が8割程度であることを考えると、管理栄養士必須科目としても良いのではないかと思う。また、開講授業が過密する2年後期ではなく、卒業ゼミや卒業研究と同時期の4年前期または3年後期の開講を検討しても良いのではないかと思う。

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎調理学実習(Aクラス)	1	後期	必修	はい	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①シラバスや実際の実習内容について予定を説明し、各週で誰が何を担当するかなど、役割分担を事前に決定し、個々人で献立の責任を持たせるようにした。</p> <p>②すべての実習のメニューのデモンストレーションを行い、どのような料理をどのように作成し、盛り付けるかまでをわかりやすく説明した。</p> <p>③実習の前週に次回の献立内容とポイントを記入するレポートを配布し予習してくるよう促した。</p> <p>④実習時間が短く、数種類の料理を作成するのは大変であるが、なぜそうするか、その理由をいつも説明し、根拠に基づき調理ができるように促した。</p> <p>⑤楽しく、おいしくをモットーに実習を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差: S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の評価点は89.9±8.7点、再試3名であった。80点以上が89.5%であり、79%以下が10.5%とまずまずのレベルであった。到達度自己評価の平均値と中央値は(1)目標の達成:3.7、4.0、(2)知識の確認修正:4.0、4.0、(5)的確な判断:3.8、4.0、(6)学習意欲:3.8、4.0、(7)必要とする技術の習得:3.9、4.0であった。この結果より、学習意欲の向上や知識の習得、的確な判断、技術などが習得できたと考えられる。</p> <p>授業の質の評価では(1)課題の評価が明確(2)学習範囲の明確さ(3)説明の理解しやすさのすべてにおいて、平均点4.0、中央値4.0であり、理解しやすかったと考えられる。</p> <p>学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、学習量の評価の(1)より予習を1回でも行っているものは61名、全く行っていないものが35名であることが分かった。実習をスムーズに効率よく行うには全体の予習が必須であるが、全体の36%が予習を行っていないため、実習の効率や流れに支障をきたしていると推察される。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。授業評価の結果より、目標の達成や技術の習得などが行われているため、学生自身の達成感が見込められる。上学年への専門知識の習得に向け、専門の基礎固めとして、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。もっと自発的に行動させるため、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業を組み込んでいきたい。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価の(4)「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」では平均点3.6、中央値4.0であった。基礎調理の習得であるため、いろいろな調理を行うことで技術や知識が身についていくが、実習内容に余裕があれば、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業も組み込んでいきたい。2年前期の応用調理学実習では参加型実習を組み込んでいる。
「図書館、インターネット利用」は調理実習のため行っていないが、余裕があれば、学習のための検索方法や便利なサイト等を紹介し、学習効果を向上させ、効率の良い学習方法を身につけさせたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

36%の学生が予習を行わずに調理実習に臨んでいることは、学習効率が非常に悪いと考えられる。この一部の学生の受け身的な態度を改善するよう対策が必要であると痛感した。もっと自発的に行動させるための取り組みが必要である。
本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけるため、基礎的知識の形成については概ね達成できた。しかし、「実習中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の評価がやや低かったため、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業を組み込んでいきたい。
また、基礎調理学実習であるため、実習の最後にオリジナルレシピを作成させ、実際にその料理を作ってみるなどの参加型実習も検討する。

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
微生物学実験(Bクラス)	2	後期	必修	いいえ	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の受講動機をみると「必修科目である」99%、「資格取得に必要である」28%、が主たる受講動機となっており、「関心のある内容である」は7%と極めて低いレベルに留まっている。授業を通じて、できるだけ興味と関心を引きつけるように努めた。</p> <p>②昨年度までと同様、実験班のチームワークが円滑に進むような人員配置になるよう配慮することによって各自の理解を深め、臨機応変に課題やレポートを課すことによって要点と技術を会得できるよう便宜を図っている。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとって重要科目である「微生物学」と「食品衛生学」を体験的に学ぶための科目であり、卒業後の勤務先で必要となる知識や技術を習得するための科目であり、その点に気を配りながら授業を進めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>①一般社会に出ても通用するような文書作成能力を身に付けてもらうために、実験レポートを国際基準に従って書くよう指導している。この実験レポートの提出が2回あるため、受講生にとって、大きな負担となるが、反面、その効果(文書作成能力の向上)は著しいものがある。従って、本科目は比較的に難易度の高い授業である。今年度の結果は、実験最終成績の平均値は78点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、90点以上の秀評価24名、80点以上90点未満の優評価14名と、理想的なレベルに達している者が35%という好ましい結果であった。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」において評価項目10項目中4項目について、いずれも中央値を0.5ポイント超えていた。評価項目(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」で3.8(中央値を0.2をポイント下回った)を示し、受講生が新たに得た知識や技術に対して十分に手ごたえを感じていないことが示された。「授業の質」評価については、5項目の評価項目中全項目について中央値を下回ったが、僅かな差であり、特に対策を講じるまでのことはないと判断した。「評価基準は明らかであった」項目で4.0ポイント(中央値も4.0ポイント)が得られており、授業でもっとも気配りした点がきちんと評価されていた。中央値を下回った評価を具体的に示すと、(3)「説明は理解しやすいものであった」(-0.2ポイント)、(5)「何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(-0.2ポイント)の2項目であったが、(5)については特に注意を払って対処していたので意外な評価結果であった。次年度の改善目標項目となった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は実験科目であり、「専門基礎科目」である「微生物学」「食品衛生学」をサポートする位置にあり、管理栄養士の職場において必修となるものである。学習の動機付けは容易であり、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から「思考判断」「技能表現」ともに達成度が高かったこと、昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、内容的には妥当であったと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

- ①「説明は理解しやすいものであった」の授業の質評価でやや低いポイント(-0.2ポイント)であった理由は、全員が「微生物」を取り扱うことが初めての体験であることに起因するものではないかと考えられる。次年度は実験の目的・手法・原理の説明を工夫して改善したい。
- ②「参加する機会が作られていた」の授業の質評価が前回よりも上がり平均値も4.0であったことは、前回からの改善策(原理説明を工夫し、ゆっくり時間をかける)が効を奏したものと思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

- ①基礎実験のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、成績評価を鑑みると、基礎的知識と技術の形成については概ね達成できた。
- ②受講生が初めて体験する微生物の取扱いを行う実験であり、実験目的・手法・原理について、今後もより判りやすくする工夫を重ねて行いたい。
- ③文書作成能力が明らかに向上したことが明確に判り、今後も、実験レポート作成手法は変えずに実施して行く。

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎栄養学Ⅱ(Aクラス)	2	後期	選択	いいえ	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①基礎栄養学Ⅱは、カリキュラムの中では選択科目となっているが、前期の基礎栄養学Ⅰ(必修科目)に続く基礎栄養学の後半を講義する連続した科目なので、全員に履修するように指導し、実際に全員履修している。ただ、管理栄養士国家試験の受験には必修であることを最初の授業で伝えているにもかかわらず、「資格取得に必要である」と答えたものが26%とかなり低いので、更に、強調するようにしたい。また、「関心のある内容である」と答えたものがわずか4.2%に留まっていたが、栄養学の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でも重要であることを、できるだけ具体的な事例を挙げて説明していきたい。</p> <p>②授業の最初に学習準備のため、オリエンテーションを行ない、授業計画表を配布した。</p> <p>③講義の中ほどに確認テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。その際、質問・要望を書く欄を設けて、学生の疑問や要望に対応できるようにした。</p> <p>④授業で使用するパワーポイントの資料は、毎年、一部を改訂し、よりわかりやすい内容になるように努めている。</p> <p>⑤授業の後半に授業内容を復習するための練習問題、管理栄養士国家試験の過去問とその解説を配布した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>試験成績の平均値(100点満点)は、Aクラス82.6点(±7.1)、Bクラス83.8点(±6.8)であり、本試験不合格者(60点未満)はA、Bクラスともいなかった。成績の内訳は、S(90点以上)がAクラスで7名、Bクラスで11名、A(80～89点)がAクラスで29名、Bクラスで32名、B(70点～79点)がAクラス18名、Bクラス11名、C(60～69点)はA、Bクラスとも1名、D(60点未満)は、A、Bクラスとも0であった。クラス間の比較では、成績上位者はBクラスがやや多かったが、平均点はほぼ同等であった。また、昨年度と比べても、ほぼ同様の結果であった。</p> <p>学生の授業評価アンケートにて、「到達度自己評価」では、項目(8)のコミュニケーション力・表現力を除いて、平均点が3点以上であるので、概ね教育目標を達成できていると考えている。特に、項目(2)の「知識の確認・修正および新知識の獲得」については3.4点、項目(6)の「専門分野における学びを深めたい意欲」については3.3点と本科目の中では比較的高い評価であった。項目(8)の評価が2.8点と低いことについては、講義の性質上、限られた時間内に多くの事柄を伝える必要があることから、一方通行の講義にならざるを得ない面があり、ある程度、やむを得ない。</p> <p>また、「学習量の評価」で、約40%の学生が30分以上の復習を1回以上実施しているが、これは、前期の基礎栄養学Ⅰの結果と比べると約10%低下している。本科目に対する意欲・関心の啓発を更にしていきたい。また、練習問題および管理栄養士国家試験の過去問題および基礎栄養のまとめなどの復習課題を配付し、自学自習のたすけとなるようにしたい。</p>					
*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」の選択科目であるが、授業準備の項でも述べた通り、前期の基礎栄養学Ⅰ(必修科目)に続く連続した科目なので、全員に履修するように指導している。基礎栄養学は、ⅠおよびⅡ共に、国家試験に多く出題される内容であり、その重要性は学生にしっかり伝えている。期末試験の成績も良好であることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績はおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン
ターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」において、項目(1)の「評価基準」、項目(2)の「学習の範囲・課題」および項目(3)の「説明の理解しやすさ」と比較的高かった。学生の成績と併せて判断すると、授業の目標はおおむね達成できたのではないかと考えられる。
学生の自由記述で、「ホワイトボードの字がうすい」、「スライドの字が小さい」という感想があったが、今後、改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門教育科目・専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、思考判断の面は、十分ではない。この点については、これからの検討課題である。

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用栄養学Ⅰ(Aクラス)	2	後期	必修	はい	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①応用栄養学Ⅰは、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が100%であることは当然の回答である。「関心のある内容である」が9.3%とかなり低いことに関しては、学生の関心をひきつけるような講義の実施が出来なかったことも推察されるため、講義内容の見直しも図りつつ、続く応用栄養学Ⅱの講義に関心をもって臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。</p> <p>②昨年までと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。また、毎回の授業終了前に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえる上、授業評価の自由記述にも、講義内容に興味を持つことが出来た、質問に返事してくれるので、目を通してあげることが嬉しい等意見が出てきている。小テスト、授業理解度の自己評価に関しては今後も続けていく予定である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果はA,Bクラスおよび再履修126名の受講生中、A(秀)が12%、B(優)が18.9%と多く、C(良)が29%と優の次に多かった、D(可)が18.2%で、不可の学生は26名(21.1%)と多かった。クラス別比較すると、Bクラスに不可の学生が多く、クラスのレベルによる授業進行の配慮も必要になることも考えた。また、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、小テストへの取り組みや、レポート以外の提出物にて評価をおこなった。受講生全員が標準的レベルに達しており、12%の学生が理想的レベル(今回は秀90点以上として試験を作成し評価した)に達していた。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、受講生の多くに、受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、62%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。シラバスを活用し、予習・復習を促すことは実施したが、他の教科の課題との関連もあり、学習時間を設けることが難しいことが考えられるため、学修時間の確保に関しては学科全体で検討していく必要がある。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。特に図書館の利用に関しては、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要がある。</p>					
* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である。卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつなぎの科目(基礎から専門への入り口科目)でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価では、約62%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は72%と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だと思いが学生たちにあると考えられる。ただし、シラバスを参考にした学生の86%が、「シラバスに沿って講義を受けることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定である。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。さらに、予習・復習課題の作成を検討していく。また、学生の意見の中に「板書がはやい」「話すスピードが速い」という意見があった。これに関しては、一昨年度にも同じ要望があり、板書スピードを遅くした経緯がある。また早口に関しては、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ全30回で、応用栄養学の全部を教える必要があるため、このスピードについてきてほしいということを初回の講義で伝えるようにしている。授業の進行上、個々人のノート記入スピードに合わせた対応は難しいため、ノート記入が間に合わなかった学生に関しては、復習時に友人からノートを見せてもらう、担当教員に聞くなどの自己学習を行うよう促している、今後もそのように促していく。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつなぎや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

学科	栄養学科
氏名	清末 達人

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動・環境と栄養(Aクラス)	3	後期	選択	いいえ	53

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>運動(身体活動)に必要な栄養摂取のあり方や、運動時に体内で起きている栄養代謝の内容とそのメカニズムを学び、身体活動を活発にすることが、結果として我々の疾病の予防や健康の維持・増進にいかに関与するかを理解する。また、学んだことを実行にうつす力を身につけることにも重点を置いた内容とした。多くの学生が、この科目を履修するのは、国家試験受験資格取得に関わるからとしていることもあり、国家試験において頻繁に出題される心身をとりまく、ストレス、生活リズム、高温・低温、高圧・低圧および無重力環境と栄養とのかかわりについてもとりあげることをとする。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>教育目標の達成度は、小テストあるいはレポートにより判定した。実施した小テストの出題レベルは、管理栄養士国家試験の応用栄養学分野の既出問題のレベルとした。その結果、多くの学生が6割のラインを越えており、知識理解や思考判断および技能表現に関する目標は達成されていると考えられる。講義した内容に関連した課題についてのレポートについても、内容をルーブリック評価に準じて客観的に判定したところ、多くの学生が、押さえておくべきポイントをしっかり記述しており、この科目についての意欲関心と態度に関する教育目標はほぼ達成されているものと判断した。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は、応用栄養学分野の中の、運動と栄養に関するトピックを抽出し、より実践的な知識と技術を身につけることを目指している。受講動機をみても多くの学生が管理栄養士の受験資格取得に必要な科目と認識して受講している。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

受講生からの希望があるかどうかは、学生の意見を見るかぎりはっきりしないが、もしもっと実践的なスポーツ栄養学の内容を取り入れてほしいという意見が強ければ、何コマかは、スポーツ栄養の現場で活躍している卒業生なり、一流のスポーツ選手なりを講師として招いて、運動と栄養に関する現場の話題を聞く機会を設けてはと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

座学としての「運動・環境と栄養」については、受講生の受講動機と本科目の本来の位置づけについての教育目標はほぼ現状で達成されていると考えられる。ただし、さらに将来にわたる展望を行ってみると、講義形式の本科目では、なかなか個人の身体状況に応じた運動処方を実施するための力は身につかないとも考えられる。できれば、本学のスポーツ部とタイアップした形での選手向けの食事指導・運動処方を実践し、その評価法も含めた演習科目を新設することも考慮する必要があると考えられる。

学科	栄養学科
氏名	久保 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育論Ⅰ(Bクラス)	2	後期	必修	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>栄養教育は、対象となる個人や集団が健康の維持・増進や疾病の治療のために、自らの意思で栄養・食生活の改善に取り組み、問題解決を図ることができるように支援する行為である。本科目では、対象者に適切な支援をするために備えておかなければならない人の行動特性や行動と心の動きとの関係等行動科学に関する知識や栄養教育マネジメントの進め方を理解することを目的としている。理論の説明だけでなく、できるだけ具体的な事例を挙げて理解が進むよう工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は68.6(±11.5)点であり、再試験対象者は25名であった。S評価4.2%、A評価14.2%、B評価29.2%、C評価31.7%、D評価20.1%となっており、到達度自己評価は「達成した」88.7%であった。一方到達度自己評価において11.3%が「目標を達成できていない」としている。本科目は管理栄養士受験資格の必須科目として位置づけられており、受講動機は「必須科目である」99.1%であった。学修準備性については「予習した」、「復習した」、「自発的に取り組んだ」と回答した者は少数であった。次回の内容についての予習は口頭にて指示していたが、確認はしていない。課題等課すことで確認するなどの工夫が必要であると考える。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「専門教育科目」の専門分野であり、栄養教育は栄養士・管理栄養士として活動するすべての分野に必要とされる人を対象とした業務である。知識、技術、態度の醸成を目的としている。「学習到達度の自己評価」において各項目「やや達成された」90%前後の評価をしており内容的妥当性のは問題ないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」平均点2.8となっている。質問し、回答を得ることを1授業時間中数回取り入れるよう心がけているが、更に多く取り入れていきたい。また「口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受け、それにこたえる機会が作られていた」平均点2.9となっているが、毎回授業終了前に振り返りテストを行い、本日の授業内容についての理解度や、解らなかったところ、再度説明してほしいところ等質問の項目を設け、記入された事項に対しては朱書きして応え、全体に必要な事項に対しては次回の開始時に復習として応答しているが、質問事項を明確にして説明をしていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

昨年度の授業評価を参考に、資料への書き込みや具体的な事例を示す等工夫をしたが、到達度自己評価において「到達されなかった」11.3%となっている。資料や事例の提示を更に工夫したい。

学科	栄養
氏名	田川 辰也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床栄養管理学	2	後期	必修	いいえ	116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①2年後期になって、実践が問われる専門科目の履修が増加し、特に医学的知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な臨床的な医学知識および考え方を修得できるよう心がけた。 ②授業の最初と最後に小テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習の進捗状況を確認するようにした。 ③授業で使用するスライドのレジュメを昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。 ④学生の意見としては、「よかった」という積極的な意見があった一方で、「オムニバスで内容を混同した」という意見もあった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①実習の成績の平均値は77(±11)であり、本試験の不合格者は名、再試の不合格者は4名であった。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは50%を超えた。 ②昨年度と比べると、本試験の平均点は12点上昇し、本試不合格者も名から名に減少するなど、大幅に改善した。 ③学生による授業評価においては、「よかった」、など、ポジティブな意見をいただいた。今後とも、わかりやすいスライド、資料、授業に心がけるとともに、授業前後の小テストを続けていきたいと考える。 以上から、教育目標は達成されていると考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門分野科目」であり、専門応用科目に相当する必修科目である。国家試験の臨床栄養学分野で多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。学生も復習に力を入れており、定期試験にて一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、知識判断、思考判断、技術表現、態度に関する達成度がすべて高かった。課題された領域はすでに内容を修正しており、すべての領域において成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.2、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.4と高かった。学生性の成績とを踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたいと考える。

②学生の意見としては、「オムニバスで内容が混同した」という意見があった。学生にわかりやすい授業になるように授業の順番を含めて改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

①専門分野科目にあたる本科目の位置づけから、臨床栄養学的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、実践科目である3年生の「臨床栄養学実習」や「栄養治療学」に引き継いでいく予定である。

②授業過程を振り返ってみたとき、授業の最初と最後に復習・確認の小テストを行ったことで、学生が検討を加える時間できた。予習課題の提示などで改善を図りつつ、さらなる改善に努めたい。

③以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、小テスト等で考える時間をとり、復習課題を意識的に提示するようにすることを続けていきたい。

④配布物(授業のスライドのレジュメなど)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、授業の順番を含めて来年度に改善を行いたい。

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養治療学Ⅱ(Aクラス)	3	後期	必修	いいえ	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うため、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目的としている。また、疾病別栄養管理の知識に加え、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。</p> <p>本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、多くの学生の受講動機は「必須科目である」「資格取得に必要である」との理由である。にもかかわらず、学修準備性について、半数程度の学生がほとんど準備をせずに受講し、受講後の復習も十分でなかった。栄養学科3年後学期は学外実習が始まる時期であることから、学生は多忙を極め、事前事後学習の時間が十分に確保できないのが現状であると思われる。しかしながら、このような状況の中でも、本科目の目標達成のためには、事前事後学習を進めることは必要であり、次年度は何らかの課題の提示を検討したいと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>本科目の本試験成績の平均値は65.6(±9.5)点であり、本試験合格者は全体の82%であった。また、標準偏差がやや大きかったことから、学生の修得状況は個人差が大きかったことが考えられる。実際には、25名(27%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は5名(6%)であった。試験内容としては、全て講義内容からの出題であったものの、標準的および理想的レベルに達成できた学生が半数以下であったことは、次年度以降の講義内容ならびに教授方法の検討が急務であることが明らかとなった。しかしながら、学生の到達度自己評価では、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得ができたことと回答していた。学生としては修得できたとの認識があったものの、試験による評価において十分な成績を得られなかったのは、的確な知識の修得ならびに理解ができていなかった結果であり、次年度は学生のより一層の理解を深めるために、重要なポイントを絞り、解説を行いたいと考える。また、知識の確認のための小テストならびに中間テストの導入も検討したい。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の「職業選択」の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたことと回答したが、試験成績が伴っておらず、学生の達成度に対する認識と成績との間に乖離がみられた。原因の一つとして、シラバスの説明不足、特に、具体的な達成の目安に対する学生と教員との認識の差によるものと考えられ、次年度はより詳細なシラバスの説明を行うこととする。また、学生の達成自己評価の高さから、内容的妥当性については問題ないものと考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目では板書での記録としているため、自由記述では自分なりのノートを作成したとの回答があった。ノートを作成することにより、講義内容の整理ができ、かつ、理解も深まるものと考えられ、板書での記録は今後も続けていきたいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。学生の達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたとの回答であり、講義内容等についての問題はないものとする。しかしながら、試験成績における達成度が十分であったとは言い難く、学生の達成度と成績評価との乖離を縮小するために、シラバスの活用はもちろんのこと、講義内容ならびに1回の講義内容量について、再検討が必要であるものとする。また、学生の理解度を量るために、小テスト等の評価の導入を検討する。

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養活動論(Bクラス)	3	後期	選択	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることを目的としている。そのため、現在、医療の現場で活躍されている管理栄養士、医療に関する法律の専門家、ならびに、臨床現場における経験の豊富な医師を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学び、医療人としての心構えを培う。</p> <p>本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、半数以上の学生の受講動機は「必須科目である」「資格取得に必要である」との理由である。また、学修準備性については、実習の事前事後課題等もあったことから、半数以上の学生が予復習時間を確保していた。しかしながら、自発的学習に取り組んだ学生は9%程度と少なく、このことは、栄養学科3年後学期は学外実習が始まる時期であることから、学生は多忙を極めていることに加え、授業の課題に取り組むことに精一杯であったためと考えられる。実際、課題以外に学修に取り組めなかった理由として、本理由が挙げられている。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>本科目の本試験成績の平均値は78.8(±3.4)点であり、本試験合格者は全体の100%であった。実際には、11名(12%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は74名(83%)にも上った。毎回、事前学習・事後学習のための2種類のレポートを課し、これらのレポート内容にて、評価を行うことを示しており、学生の学修の成果は十分に反映されていたと考えられる。本科目を受講するに当たり、半数以上の学生が予復習時間を確保しており、授業の参加ならびに振り返りに対し、積極的に取り組んでいた。また、図書館およびインターネットの利用も認められ、本科目に対する学修準備性の高さが窺え、これらのことが学生の成績へと表れたものと推察される。そして、このことは、学生の到達度自己評価においても同様の結果を示しており、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたと回答していた。以上のことから、本科目における教育目標はおおよそ達成できたものと予想される。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであり、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。現在、医療の現場で活躍されている管理栄養士、医療に関する法律の専門家、ならびに、臨床現場における経験の豊富な医師を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学ぶことにより、管理栄養士に必要な栄養ケアの知識やスキルを深めることを目標に掲げている。このことは、学生の達成度自己評価の「職業選択」の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、後学期終了後、本科目履修学生は臨地実習Ⅱ(臨床栄養:病院)での学外実習を控えており、本科目が臨地実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性の気づきにもなったものと思われる。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、内容的妥当性については問題ないものとする。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであり、学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。本科目の特徴は、現在、医療の現場で活躍されている管理栄養士、医療に関する法律の専門家、ならびに、臨床現場における経験の豊富な医師を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学ぶことであり、3年次後学期終了後の臨地実習Ⅱ(病院)とも直結していることにある。学生は本科目の学修準備性として、予復習時間の確保ならびに積極的な学習の取組を実現したことにより、90%以上の学生が標準的レベル以上を達成した。同様に、達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答した。以上のことから、本科目の内容等についての課題はないものとする。

学科	栄養学科
氏名	中村 貴志

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
介護概論	3	後期	選択	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今回の受講動機をみると、「必修科目である(75.6%)」と「資格取得に必要である(39.5%)」が高く、「関心のある内容である(5.8%)」は低い値であった。できるだけ具体的な事例、新聞記事、ビデオ教材を用いることで、授業に対する関心を持てるようになってきている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらももえない	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績では、9割以上の受講学生が80点以上であり、介護の基本的な考え方や介護現場の課題は理解できたものと判断した。学生による授業評価においては、各項目の平均点が3.2～3.3に集中しており、最も低かったのが「コミュニケーションや表現力を高めることができた(3.0)」であった。主体的に授業へ参加する機会が少なく、コミュニケーションや表現力を十分に高めることができなかったことが、「意欲関心」の達成状況の低さと関連があるものと考えている。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>授業への動機づけ(意欲関心)に苦慮する面があったが、学生は一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、
インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「学生が参加する機会が作られていた(3.1)」の平均点が最も低かった。講義系科目で、授業回数は1単位分の8回と限界があるが、可能な範囲で学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面を設定するなどの改善を行いたい。また、「予復習時間」や「図書館利用」が想定より少なかった。この理由として、学生側からは「他の科目の課題が多いこと」「(実習・実験系の科目の課題やレポートへの対応で)時間がない」との意見も出されている。今後は、学生にとっても可能なことから、図書館の利用など自発的な学習を促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

「知識理解」と「思考判断」については、概ね達成できたものと判断している。今後は、「意欲関心」を高めるために、可能な範囲で学生の発言の機会や学生同士の意見交換ができる場面を設定するなどの改善を行いたい。また、図書館の利用など自発的な学習を促したい。

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆栄養学 I (Bクラス)	2	後期	必修	いいえ	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、公衆栄養学領域で入学後初めて受講する科目であるため、第1回目の講義の際に授業目標と臨地実習の要件科目であることを説明しているが、履修動機としては①必修科目である100%こと以外に、②資格取得科目であることへの理解が低い(24.8%)が、栄養学科の場合は栄養士免許資格科目は、ほぼ卒業必修科目であるため、2項目の違いはないものと考えられる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の最終的な成績の平均値は66.2(±10.1)、再試験対象者は全体の23%であったので、学生が標準的なレベルを達成した学生は8割程度であった。目標別のDP到達度においても、DP1(事象を理解する視点)が99.2%、DP2(課題を検討する力)が96.6%、DP3(学びを深めたい意欲)が93.2%と、ほぼ全員が到達したと言える。</p> <p>しかし、学習量としては、1回30分以上の準備・復習が0回の者が約半数いた。本科目が開講される2年後期から、専門科目の履修がそれまでと異なり飛躍的に増え、実験・実習科目が多く、学生の自由記述からも「時間が作れない」「時間がない」との意見があったことから、これ以上の学習時間の増加は難しいものと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、公衆栄養学領域で入学後初めて受講する科目であり、行政業務の理解をするための基礎的な法的根拠や実態把握の種類等について学び、3年時の実習へと繋ぐ科目であるため、CP上の位置づけは妥当であり、99.2%の学生が「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と回答していることから、内容的妥当性は確保できている。</p> <p>しかし、2年前期にすでに終了している公衆衛生学と重複している学習内容について質問した際に、解答できる学生が少なく、その点について厳しく指摘することが多いため、学生による自由記述に「厳しい」などの意見が多い。学習の準備時間の不足も含めて、履修済科目との関連を授業内に効率よく含めていくことを検討する必要がある。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

行政、法律、社会保障などの理解には中学高校レベルの社会科の理解が必要であるが、理解に乏しい学生が見られ、基本的な部分からの説明が必要な状態で、臨地実習および国家試験合格のための内容を網羅しようとすると授業時間数が圧倒的に不足しており、質問等を受け付ける時間がない(質問を受け付ける機会が作られていた84.7%)。毎年、講義内容を検討し、「最低でも臨地実習Ⅲに必要な内容レベル」まで、そぎ落とし、国家試験合格に必要な内容については4年時開講の管理栄養士演習に持ち越すなどの工夫はしている。
パワーポイントをホワイトボードに投影し、パワーポイントの内容とホワイトボードへの書き込みを併用しているため、投影された画面が小さく(ホワイトボードの縦の長さしか投影できない)、後ろの席の者が見えにくいようなので、次年度は前方に空席を作り、席の移動を可能にする(しかし、自由座席の際、後方に座りたがるのも事実である)。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

2年後期から履修科目が増え、さらに基礎科目から栄養士・管理栄養士資格の専門科目が増えることから、学生の学習スタンスに戸惑いが感じられるが、学習到達度自己評価は高かったことから、基礎知識の形成は概ねできたと評価される。
また小テストの回数を増加し、授業内容のスリム化を行ったことより、再試験対象者が昨年(36%)より、減少した(23%)。次年度は、授業中に演習を取り入れるなどし、アセスメントの手法についての学びが深められる方法について検討したい。

学科	栄養学科
氏名	坂巻 路可

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際栄養論	4	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、4年生の開講科目である。国際的視野に立つことの重要性を学び、国際的視点に立って食糧の供給と栄養政策面や健康と栄養、あるいは食文化や食生活の面から自国と他国との比較や世界における自国の位置を知ることにより、より深く「日本」を理解し、他国の食政策や食文化を理解し、国際協力活動への理解を深めることを目的としている。受講動機については、「関心がある」ことと一方で「単位数確保」のための2つの動機が66.7%と同割合で最も多い受講動機となっていた。学修準備性については、4回以上の学習準備をした学生は殆どいなかった。次年度に向けて予復習の取り組みの状況を改善できるような教材や講義の進め方について検討したい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>総合的な成績の平均値は72.8(±12.5)点であった。成績については理想的レベル(概ね80点以上)に達した学生が約半数であった。学生による授業評価においては、回答者全員が新たな知識を得ることができており、自分なりの目標を達成している。また、学びを深めたい者、様々な課題を検討する力を得たと回答した割合も高かった。自己評価については、どの項目もあまり差が認められなかったがコミュニケーション力や表現力を高めることができたと回答した割合が80%と高かった。本科目の教育目標については概ね達成されたと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は選択科目であり、専門分野に必要な知識の実践的な学びを目指している。学生による授業評価においては、ほぼ全員が新たな知識を得ることができており、またコミュニケーション力や表現力も身につけることができています。成績評価においては、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度は高く、本科目の内容的妥当性は問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目においては、実践的な学びを目指しており、体験学習を取り入れまた、図書館やインターネット等の積極的な活用を進めながら授業を進めていった。学修のための情報利用について、70%以上の学生がこれらを活用していたため、次年度以降も積極的な利用を進めていきたい。また、授業の質の評価において、「授業中に自分の意見をまとめ発表する機会が設けられていた」についての平均は、4.3でその他の項目も4.0以上であったため、次年度に向けてより良い講義内容の構築に向け取り組んでいきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目における学習到達度の自己評価において、回答者全員が目標を達成し、新たな知識を得て、的確に判断する力を得ることができたと評価している。次年度に向け、効果的に予復習を進めることができ、またその動機づけになるような教材や授業の進め方を検討し、授業改善に努めたい。

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域栄養活動論	3	後期	選択	いいえ	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、選択科目であるが、臨地実習Ⅲ(保健所・保健センター)の事前指導を兼ねた授業内容となっているため学生に履修をするように指導している。このことから(資格に)必修科目である42.2%、資格取得に必要46.7%、教員に勧められた17.8%が受講動機となっている。しかし、選択科目であることから、単位数を確保する26.7%も存在し、受講のモチベーションにばらつきがみられる。</p> <p>臨地実習の事前指導を兼ねているため、実習ノートの事前学習の仕上げを課題に取り入れながら進めたため、学習量として、準備・復習時間の確保がなされている。このことが、「単位数確保」目的の学生にとっては負担(不満)に感じた部分であると解釈される。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>本科目の成績の平均点は80.8(±15.6)点であり、レポートを提出せずに再試験対象となった1名を除く全員が標準的なレベルに達した。学生による自己評価においても、自分なりの目標を達した者は93.5%と高く、またDP1(95.6)、DP2(97.8%)、DP3(95.6%)と概ね学習目標は達成されたと考えられる。</p> <p>全15回の授業のうち5回は外部講師を招聘し、行政管理栄養士における本庁、保健所、保健センター業務について、また福岡県栄養士会役員の方による地域活動の実際などについての講話を取り入れた。また、災害時の対策が公衆栄養領域で近年重要視されていることから、災害時の食について、実際の非常食の観察などを取り入れたことから、「いろんな話がきけて勉強になった」などの意見もあった。今となっては、災害時の食支援のテーマを地域栄養活動論に取り込んだことは高く評価できると考えられるため、次年度も非常食の試食などを取り入れていきたいと考えている。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>これまで臨地実習の事前指導は、授業時間外に設け行っていたが、学生の履修スケジュールや利便性、および選択科目である本科目の理解度を高めるために、臨地実習Ⅲ(保健所・保健センター)の事前指導を兼ねた授業内容とした。このことは、学生の自己評価の高さや自由記述からも妥当性が高いと考えられる。しかし、選択科目であるため臨地実習の履修しない学生や卒業要件を満たすための単位習得目的の4年生もいるため、モチベーションのばらつきがみられる。今後は、カリキュラム改編の際に、受験資格取得必修科目への変更などの検討が必要であると考えられる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

臨地実習ノートの事前学習内容をレポート課題としたために、図書館の利用やデータベース利用が約半数の者に見られた。しかし、臨地実習先によって(都道府県、市町村など)習得できる情報の量・質が異なることから、(特に市町村はインターネット上での情報開示量が少ない)、課題の進め方がわからない学生がいたと推察される。臨地実習先ごとに仕上げる内容が異なる(保健所と保健センター)ことから、次年度は参考になる情報源について、保健所・市町村別の参考資料の配布などを検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

地域栄養活動の実際を学ぶことを目的としていることから、外部講師による実践的な内容の講話、および自分の臨地実習先での地域栄養活動について下調べすることで、理解が深まったと推察される。また今年度から、災害時の食支援について、座学だけではなく非常食の観察なども取り入れたことは、熊本・大分での震災後の今となっては効果的だったと考えられる。次年度は異なる臨地実習先に対する参考資料の提示の方法と、臨地実習を履修しない(管理栄養士を受験しない)学生に対する履修動機の向上の方法について検討したい。

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理論(Aクラス)	2	後期	選択	はい	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>給食提供現場の経営管理分野に関しての科目であるため、栄養管理以外の部分の理解を促す必要がある。経営学の内容がほぼ中心となるため、授業初回に本講義の趣旨と授業計画の説明を行っている。学習の準備性の点では、専門分野の科目としてはなじみにくい内容であるため、復習に重点を置かせた。また、実務に直結する内容というより、国家試験に必要な知識が多く含まれる科目のため、その点を重点的に説明するようにしている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本試験の成績平均値は65点であり、再試対象者は42/131名であった。全体の約3割が再試対象であったことから、標準レベルの到達度は低いと考えられる。2015年度は、試験形式に論述式を多く取り入れたため、問題の難易度が上がったことも影響していると思われる。試験はDP1(知識理解)の評価方法である。論述形式を取り入れたことで、知識への理解度の差が明確に表れたと思われる。この結果を受け、知識の理解から定着に至るような授業の工夫が次年度の課題であると考えている。学生の到達度自己評価を見ると、知識の刷新に関しての自己評価が高かった。また、判断力、意欲、専門的な技術等に関しての自己評価は同等であり、「知識は得られた」と感じているが「理解する」まで及ばなかった可能性が見受けられた。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>臨床実習Ⅰ(給食の運営)の実習先となるかく各種特定給食施設の給食経営管理の内容について解説する科目でもあるため、履修学生は「資格取得に必須」の科目という認識を持っている。前述した「経営学」の部分も給食施設の経営管理として解説しているため、「新たな知識の確認」という点では一定の評価が得られていると思われる。よって、内容的には妥当であると思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「意見をまとめる」「話しあう」「発表する」等の学生参加型の講義方式にすることは難しく、授業の質評価の他項目より評価がわずかに低かった。この点に関しては、科目内容の性格上、現在の講義方法を維持することとする。学習量の評価を見ると、予習・復習に取り組む者がきわめて少ないが、自由記述欄から「他科目・実習の課題で時間が取れない」との意見があり、これが原因であることが想定される。特に3年後期は多くの実習が配当されているため、予習・復習の時間確保に関しては苦慮するところである。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

給食経営管理分野の講義科目として、学内実習・臨地実習に向けての知識を教授する位置づけの科目である。DP知識理解の最終評価としては、「知っている」も「説明できない」ことが浮き彫りとなった。一方で、到達度自己評価の結果からは、給食施設における管理栄養士の業務内容への一定の理解は得られていると考える。今後は、得られた知識を用いて「説明できる」ことに重点をおいた講義方法を検討することとする。

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用栄養学実習(Bクラス)	3	後期	必修	はい	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①応用栄養学実習は、講義の応用栄養学Ⅰ、Ⅱの実習科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が97.7%であることは当然の回答であり、「関心のある内容である」が12.8%と低いことに関しては、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ(2年後期、3年前期)の講義が、学生にとっては関心を引き付けるような内容でなかったことや、本実習科目を応用栄養学の実習科目であることの理解につなげることが出来なかったことが考えられるため、講義における応用栄養学の内容に関して、次に続く実習に結び付けながら学生のモチベーションを保ちつつ、本実習に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。</p> <p>②昨年までと同様、この実習では、学生に献立を調理させる前に示範をし、調理の際の留意点や栄養補給法のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養学上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えている。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえる上、授業評価の自由記述にも、楽しかったなどの興味を抱くことが出来たと考えられる意見が挙げられており、今後も試行錯誤しながら実習内容の検討を続けていく。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)の一部に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は93名の受講生中、A(秀)が16.1%、B(優)が38.6%と多く、C(良)24.8%と優の次に多かった、D(可)が13.1%で、不可の学生は6名だけであった。また、DP3(意欲関心)、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、課題への取り組みや提出物、調理技術等で行った。受講生全員が標準的レベルに達しており、16.1%の学生が理想的レベル(今回は秀90点以上として試験および課題点を作成し評価した)に達していた。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、受講生の多くに、実習受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断、意欲関心そして技能・表現、態度全てにおいて自己評価が高い。この実習への関心の高さは、試験結果や、課題内容、自己評価で判断することが出来た。また学習量の評価では、多くの学生が予習および復習を行っていた。このことは課題の提出が義務であったからという理由も考えられるが、シラバスにおいて予習・復習をする具体的な時間を記載していたことも学生たちの自学につながったと考える。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生も多かった、今後も図書館の利用をすすめていく。</p>					
* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である。卒業必修でもある。また管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している講義の応用栄養学の実習科目として必修となる科目である。このことから、受講動機の「必修科目である」が97.7%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価では、多くの学生が予習、復習をしてきていた。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は51%と高かった。シラバスを参考にした学生の87%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、今後も実習初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の実習の進め方、課題提出や自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定である。予習復習等自己学習に関しては、課題以外の学習も取り組むことが出来るように、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。また、学生の意見の中に「課題が多すぎる」という意見があった、これに関しては、個々人が管理栄養士の国家試験受験資格を取得するために、かつ、職業意識をつけるために自己研鑽を積んでいることへの自覚を持たせていく必要があり、学生たちを励ましながら学習させていく努力が教員に必要であると考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、座学の応用栄養学の実習科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。これからも実習時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

学科	栄養学科
氏名	久保 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養教育論実習Ⅱ(Aクラス)	3	後期	選択	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、病態、食事療法について理解し、生活習慣の改善や傷病者に対する食事療法を支援するための栄養カウンセリング技法の獲得、個人および集団に対して適切な栄養教育ができるようになることを目的としている。また、グループ学習を通して多職種協働を理解し、コミュニケーションスキルを身に付けることを目標に掲げている。</p> <p>本科目は、栄養士取得および管理栄養士受験資格の必須科目であるという位置づけであるため、多くの学生の受講動機は、「必修科目である」「資格取得に必要である」との理由である。開講時の「学修準備性」については、授業の最初にアンケートを行っていないため学生の準備性の事実を把握できていない。次年度は、「学修準備性」を把握するために初回授業においてアンケートを実施し、授業計画に反映させていきたいと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は、74(±5.1)点であり、不合格者は0名であった。標準的レベルに達した者(70点以上)は74名(78.7%)であり、その中でも理想的レベル(80点以上)に達した者は12名(12.8%)と、限られた人数であった。成績評価は、課題提出、ロールプレイ、発表および発表に関する取り組みにより行った。ロールプレイおよび発表は、評価基準を示し学生同士による評価ならびにフィードバックを実施した。標準的レベルに達していないものは、授業の出席状況や課題提出状況、発表に対する取り組み方などいずれかに課題があったため、授業オリエンテーションや毎授業で学習への意識が高められるように促していきたい。</p> <p>学習到達度の自己評価においては、どの項目においても95%以上が「そうだと思う」と回答しているため、教育目標は概ね達成されたと考えられる。本科目では、栄養教育のための教材作成で情報の収集が必要である。そこで、図書館利用の項目から情報収集の方法について確認すると、インターネットを利用が70%、図書館での図書・雑誌の利用が38%、学術データベースの利用は20%であった。インターネットによる情報収集に頼っている学生が多いため、根拠のある情報を収集するためにも、図書や雑誌の利用、また学術データベースを利用する学生を増やすことも今後の課題であると考えられる。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の中の「専門分野」に位置し、「臨地実習」へとつながる科目である。栄養士資格取得、管理栄養士国家試験受験資格に必須となっている。栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする能力および個人栄養教育、集団栄養教育で適切な栄養教育を実施する力を養う科目であるため、栄養士、管理栄養士を目指す学生にとって必ずしも身に付けておくべき分野である。また、学生の成績より一定の成績を収めているという結果から、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価は、DP5の「技能・表現」を重視し、課題や発表など授業内での取組により行った。学生の授業評価では、到達度自己評価においてDP5に該当する「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目は全員の学生が「そうだと思う」と答えており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の項目で、6名の学生が「少しそうでないと思う」と答えていた。また、自由記述のなかで、「3年生への評価と再履修生とでは評価が違う」というような意見があったことから、学生にとって評価基準が明確でなかった点があったのではないかと考えられる。本科目は、筆記試験による評価がないことから、課題や発表での評価基準をより明確に学生に示すことが来年度への課題である。
また、「授業の展開が速い」という意見もあったため、学生の理解スピードに合わせ授業を行うように来年度は改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

栄養士、管理栄養士を目指す学生にとって、本科目は必ず身に付けておかなければならない科目である。学生の達成度自己評価においては、全ての科目において約95%の学生が「達成した」と回答しており、また最終成績においても78.7%の学生が標準的レベルに達していたため内容的妥当性については問題ないとする。しかし、学生の「展開が速い」という意見から改めて授業過程を振り返ってみたとき、学生がじっくりと検討する時間が十分ではなかった項目もあったため、来年度に向けて改善を図りたい。

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養学実習Ⅱ(Bクラス)	3	後期	必修	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、傷病者の病態や栄養状態の特徴に応じた適切な栄養管理を行うため、各疾患の病態および栄養状態を把握し、調理実習を通して、栄養・食事療法に対応できる知識および技術を修得することを目的としている。また、食事療法を必要とする疾患・病態の症例を提示し、栄養アセスメント、栄養ケア計画の実際、食事療法の調整までの一連の流れについて、実習することにより、臨床栄養分野における管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。</p> <p>本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、多くの学生の受講動機は「必須科目である」「資格取得に必要である」との理由である。また、学修準備性については、実習の事前事後課題等もあったことから、半数以上の学生が予復習時間を確保していた。しかしながら、自発的学習に取り組んだ学生は9%程度と少なく、このことは、栄養学科3年後学期は学外実習が始まる時期であることから、学生は多忙を極めていることに加え、授業の課題に取り組むことに精一杯であったためと考えられる。実際、課題以外に学修に取り組めなかった理由として、本理由が挙げられている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>本科目の本試験成績の平均値は74.6(±7.3)点であり、本試験合格者は全体の98%であった。実際には、47名(51%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は19名(21%)であった。試験内容としては、筆記試験、実習試験および課題等であり、学生の学修の成果は十分に反映されていたと考えられる。本科目を受講するに当たり、半数以上の学生が予復習時間を確保しており、授業の参加ならびに振り返りに対し、積極的に取り組んでいた。また、図書館およびインターネットの利用も認められ、本科目に対する学修準備性の高さが窺え、これらのことが学生の成績へと表れたものと推察される。そして、このことは、学生の到達度自己評価においても同様の結果を示しており、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたと回答していた。以上のことから、本科目における教育目標はおおよそ達成できたものと予想される。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の「職業選択」の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、後学期終了後、本科目履修学生は臨床実習Ⅱ(臨床栄養:病院)での学外実習を控えており、本科目が臨床実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性の気づきにもなったものと思われる。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、内容的妥当性については問題ないものとする。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目における坂巻担当時の進め方につき、自由記述で「課題や配布資料についての説明が分かり難い」との感想があったため、具体的な記入例を明示してより詳細な解説を加え、積極的な質問を促しながら学習状況を確認し進めていくよう授業改善を図りたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。さらに、本科目の内容は3年次後学期終了後の臨地実習Ⅱ(病院)とも直結しており、学生は本科目の学修準備性として、予復習時間の確保ならびに積極的な学習の取組を実現したことにより、70%以上の学生が標準的レベル以上を達成した。同様に、達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答した。以上のことから、本科目の内容等についての問題はないものとする。

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆栄養学実習(Bクラス)	3	後期	必修	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	3年後期で、臨地実習Ⅲ(保健所・保健センター)を履修する者と履修しない者に分かれるため、資格取得についての動機付けが弱く(44.3%)、必修科目であるから(94.9%)仕方なく履修しているという受講動機に差が見られた。自由記述から「わかりにくい。難しい」が多いことから、すでに学習済である疫学、統計情報、栄養教育に関する科目の習熟度が低いことが推察される。臨地実習を踏まえ、公衆栄養マネジメントのPDCAサイクルを一通り運営し、理解と技術の習得を行うことを教育目標としていることから、実習内容をこれ以上上げることができないため、次年度より課題の提示について、より具体的にしよう検討したい。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の成績の平均値は69.3(±6.4)点で、概ね標準的レベルに達したが、理想的レベル(80点以上)の者は9名(9.3%)しかいなかった。グループ活動が多く、複数の課題を班員で分担して行うことが多いため、どうしても成果物を担当した学生のレベルに委ねられてしまうことが原因と考えられる。学生の自己評価によると、各目標の達成度はDP1(97.7%)、DP2(97.7%)、DP3(92.0%)、DP5(87.8%)とどれも概ね高かった。実際に採集したアンケート結果から課題を発見し、解決策を検討することを目標としているため、どうしても情報処理能力が問われる。実習中には統計処理ソフト(エクセル統計)の使用法の説明しかできないため、実際の統計処理は各自の実習時間外作業となるが、情報処理室の開放時間が限られているため、課題が思うように進まないようである。この点については、授業内容レベルの低下はこれ以上できないため、大学の学習環境の改善を強く望む。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	臨地実習を目前に控えた3年後期の開講科目であり、主に課題を発見し、解決策を考える力、行動変容が期待できる集団健康教育企画の立案と運営などの実践的な能力の習得を目指す内容であり、学生の学習到達度の自己評価も98.8%と高いことから内容的妥当性は高いものと考えられる。しかし、教員が期待するレベルに達していないため厳しく指導を行うことが多く、学生が不満に感じていることが自由記述からうかがえるが、臨地実習先施設(保健所・保健センター)からは高い評価を得ているので、指導内容は妥当と考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

PDCAサイクルの運営を一通り実践することから、実習スケジュールが非常にタイトであることは認める。しかし、今年度は課題をスムーズに仕上げるためにルーブリック評価を用い、事前に評価基準について学生に配布したが、学生は参考にしていなかった。
上述の実習スケジュールから、毎年「課題が多い」と不満が多いので、今年度から最終の個人課題レポートの作成は、臨地実習の事前課題の作成および定期試験勉強と時期が重なり、学生にとって過剰な作業だったようなので削除するなど、授業内容について毎年改善(実習内容のスリム化)している。
健康教育授業案の作成のために、約半数の者が図書館を利用している。次年度からは参考図書等の提示を進めていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

ニーズアセスメントのためのアンケート作成から、PDCAサイクルの運営を一通り行うタイトなスケジュールであるが、3年後期の専門科目の最終段階で、臨地実習直前の科目であるため、指導が厳しい点は認める。しかし、実際には臨地実習先から高い評価を得ているため、効果があると評価できる。
次年度は学生の課題に取り組む時間や負担を減らすために、参考図書や資料の提示、評価方法の事前の提示などを取り込んでいきたい。

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理実習 I (Aクラス)	2	後期	必修	はい	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①管理栄養士・栄養士の要件科目であり、3年前期・給食経営管理実習Ⅱ（以降、実習Ⅱとする）の基礎となる科目である。履修動機としては「必修科目である」が100%であった。卒業必修、管理栄養士・栄養士資格必修選択科目であるため、前述のような結果となった。</p> <p>②特定給食施設を想定した生産管理、衛生管理、品質管理、原価管理の計画・実施を、各管理内容に必要な帳票整理を通して評価・改善を行わせる内容である。学生の自主学習が実習進捗度および給食管理に関する習熟度に影響を及ぼすため、2年前期・給食計画論で必要な知識の習得に努め、本実習で実践する流れを作っている。③実習の性格上、時間外の作業が多い点で、前年度の一部の学生から不満が出ていたため、あらかじめ時間外の活動が必要となる点に関しては、オリエンテーションで十分に説明を行った。授業時間外の活動を省くことは、実習を運営する上で、困難である。本実習で修得した経営管理の知識を、実習Ⅱで実践・運用していく。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>総合成績の平均点は75点で、再試対象者は21/110名(19%)であった。再試対象者となった者は、DP1(知識理解)に関しての到達度が低い者である。DP2～5に関しては、実習を通しての実務や課題内容で判断し、標準レベルへ到達したと思われる。到達度自己評価は全ての項目において、高い評価となっており、学生個人が十分に取り組み、専門性の理解も進んだと考えられる。学習量の評価では約80%の者が30分以上の予習をした上で実習に参加しており、ここからも取り組みの高さが窺える。一方で、担当教員への意見では、「時間外の作業が多い」という意見が散見された。この意見に関しては、「給食経営管理」実習の給食現場に則して実施する上では、変更の余地はない。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本実習は専門科目、臨地実習への準備科目としての位置づけである。DP、CP、カリキュラムマップからみて、内容的に妥当であると考えられる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、
インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価、担当教員への意見から、「時間内に行うべき学習の範囲や課題」が明確でなく感じられているようである。この結果に対しては、実習に性格上、時間内での作業終了や課題の完成は難しいと考える。時間外に、いかに自主的に課題や実習準備に取り組むかが重要であると思われるため、変更の余地はない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生よっての取り組みの程度に差が見られるため、消極的な取り組み姿勢の学生へのフォローを行ってきたい。

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	選択	いいえ	1

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本年度は一人の受講生があった。受講動機は「関心のある内容である」であった。本学生に対して、「β細胞のインスリン分泌機構に影響をおよぼす成分を含む食品のスクリーニング」というテーマを与え、実験研究を遂行させた。実験研究を行う上で大切にしていることは、「考え、かつ手を動かすことを忍耐強く継続する」である。実験研究を行うに当たっては、研究の目的、研究の背景、実験方法の原理の理解、実験手技の修得を行った上で、実際の実験を恒常的に続けることが必須である。そのために受講学生にはまず、研究の目的、研究の背景を理解させるために先行研究の論文購読および私とのディスカッションを連日行いつつ、実験方法の原理の理解と修得を実地でやはり連日訓練した。これらの準備・訓練を充分に行わずして、研究のための実験へと進むこと自体が不可能であるからである。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>準備・訓練期間の後、実験研究を約8ヶ月行った。受講学生の準備性は十分であり、そのことを研究の遂行に充分活かしたものと評価した。本科目の本年度の受講生が、準備、遂行のために学内で費やした時間は、200時間を超えていたものと考えられる。知識理解 (DP1)、思考判断 (DP2)、意欲関心 (DP3)、態度 (DP4) および技能表現 (DP5) のすべてが十分であったからこそ、卒業研究をなし得たものと考えている。本年度、栄養学科全体で卒業研究を行い、発表会にまでこぎ着けたのは、本受講生一人であり、これは本人が本科目に意欲的に取り組んだ努力の結果であるのは自明である。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPでの位置づけは、専門教育科目の中のその他であり、選択科目である。3年次までに履修した専門基礎科目、特に生化学、基礎栄養学および生理学の内容の理解の上に応用力を駆使して遂行すべき内容であった。</p> <p>②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、関心・意欲、態度、および技能・表現のすべてにまたがっている。本年度の卒業研究では、特に、「DP1-2) 栄養管理、栄養教育のために必要な、専門的な知識及び技術を修得している」、「DP2-1) 健康に関する諸課題について、これまでに培った知識・技術をもとに論理的に思考し、判断することができる」、「DP3-1) 保健、医療、福祉に深い関心を持ち、健康増進及び疾病予防・治療に貢献しようとする強い意欲を持っている」、「DP4-2) 専門的知識・技術を高めるため、継続的に自己を啓発し、研鑽しようとする態度が身につけている」を問う内容に力点を置いた内容であった。受講生が最後まで投げ出すことなく研究発表にまでこぎ着けたことから、全体として、妥当な内容であったと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

4年次の開講科目であるが、それ以前の3年次までに自主研究、自主ゼミなど何らかのかたちで、新しいことや研究に意欲的な学生に研究の場を共有する方法を模索したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本年度は、5年振りに卒業ゼミではなく、卒業研究の受講生を得ることができ、かつその受講生が最後までやりきったことで、達成状況は概ね満足のいくものであった。課題は、卒業研究を受講しようという意欲的な学生が激減していることである。生化学の講義や実習を少しでも魅力的なものへと改善していくことで、徐々に意欲的な学生を増やしていく必要がある。

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	選択	いいえ	1

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、管理栄養士国家試験の受験科目ではない。自由選択科目であるが、受講者にとっての負担が大きいため、学科全体で受講する学生は、例年、わずか1～2名である。四年次のアドバイザーは、基本的には、この卒研担当教官が兼任することになっている。従って、担当教官は、卒研の遂行だけでなく、就職支援、国家試験合格支援を行うことになる。</p> <p>②週一回の国家試験対策の勉強会は、卒研および卒ゼミ受講者が自由参加することにしたが、国家試験受験者は、前期は全員が参加し、後期はそれ(生化学)の学習を必要とする者9名が参加した。卒研受講者は、前期、後期ともに参加した。</p> <p>③卒研については、学科の申し合わせにより、「最後に必ず研究発表会を開催すること」となっているが、私の担当ゼミでは、併せて、卒論もしくは、それに匹敵するような実験レポートの提出を義務づけている。研究の質としては、国公立大学の学部生から修士までのレベルの内容であり、決して容易な科目ではない。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成されなかった	達成されなかった	達成されなかった	達成されなかった	達成されなかった	達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。						
<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①実験が7割ほど完成した頃に、研究が中断した。</p> <p>②その理由は、国家試験の受験勉強が遅滞し、合格が危ぶまれるほどの状況に陥ったためであった。</p> <p>以上のことが評価の根拠である。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は国家試験受験対策の科目であり、全員が国家試験に合格するためには、全員が標準以上の成績評価を得なければならない。学習の動機付けは容易であり、受講途中でやむなく放棄したものの、内容的には妥当であると考えた。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 ①と同じ理由から、内容的には妥当であったと考えた。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われた。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①4年次は、就職活動と国家試験に向けての学習があり、卒研の単位を取得するための大きな負担を考えると、3年次から開講した方が良いように思われる。
②今後、国家試験の時期が前倒しになり1月受験ということになることを考えれば、学科の申し合わせである「最後に必ず研究発表会を開催すること」については、廃止の方向で考えるべきだと思われる。今回の受講生は、発表会までには至らなかったものの、研究の到達点から考えれば「良」もしくは「可」の評価ができるものであったので、受講生の努力に報いるためにも、研究発表会の義務づけは廃止する方向で、学科に図って行きたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

①きちんと研究を完結するために、早期に着手するよう、受講生に促し指導したい。
②学科全体の受講者数が1～2名というのは異常な状況であり、今後、国家試験が早期に実施されることを考えれば、4年次の夏休みまでには研究を完了しておく必要があり、3年次から開講ということについても学科に図って行きたい。

学科	栄養
氏名	田川 辰也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①4年生の科目であり、自主的に学ぶ科目である。自学すべき大学生として、研究マインドで履修できるように進めた。</p> <p>②授業の最初にオリエンテーションを行い、これから行う研究について、方法論を含め解説した。</p> <p>③実験は約70名の対象者に対し、大動脈波伝播速度 (baPWV) の測定を行った。測定自体は学生たち自身が行うようにした。</p> <p>④対象者のbaPWVを測定し、血圧、身長、BMI、腹囲、高血圧、糖尿病、脂質異常症との関連をEXCEL統計を使い、学生自身に解析させた。</p> <p>⑤最終的には後期終了までに論文に仕上げさせる予定である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>①研究準備のための設備(コンピューター、formPWVなど)は、9号館相談室2に整えられており、情報は図書館およびインターネットを利用している。</p> <p>②成績評価としては、履修者6名全員が秀の成績である。</p> <p>③学生の授業評価アンケートの結果は全担当教官の総合評価であり、田川の卒業ゼミの評価は難しいが、履修者6名全員が秀の成績であることから、教育目標は達成されていると考えられる。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であり、選択科目である。学生が自ら学ぶ研究的要素が多い科目であり、専門性、自主性、想像力が問われる科目である。内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、知識判断、思考判断、技術表現、態度に関する達成度がすべて高かった。昨年度課題としてあげた領域はすべて内容を修正しており、すべての領域の成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①血圧脈波検査装置であるformPWV/ABI、大動脈の血管弾性の指標であるbaPWV(血管年齢)の測定を行った。栄養学科公開講座に参加した地域住民を対象に、baPWVを測定し、baPWVと血圧、BMI、腹囲、高血圧、糖尿病、脂質異常症の関連を検討した。baPWVの測定は学生が行い、また、データの解析処理も学生が行った。
②学生が主体で行う科目であるが、田川ゼミの学生の研究の進め方は評価できると思う。
③課題としては、研究計画をの段階で、もっと学生の意見を取り入れられるようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

①専門応用科目の臨床的發展も目指す本科目の位置づけから、思考判断の面で目標を達成することができた。
②昨年度の課題とされた学生の主体性については改善したと評価できる。
③授業過程を振り返ってみたとき、国家試験の準備をしながら、研究をしていたため、時間的にはかなり大変だったと考えられるが、学生たちはしっかりと取り組んでいたと評価できる。
以上から、可能な限り話し合いの時間をとり、各自の考察を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。
また、今後学会等で発表できるよう発展させていきたいと考える。

学科	栄養学科
氏名	清末 達人

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本ゼミにおいては、パーソナルコンピューターを使用して、マイクロソフト社のVISUAL BASICを用いて、自らプログラミングができるようになるための手ほどきをした。と考えた。一般に、プログラミングに熟達するためには、自動努力が必要で、他人から基本的技法を習っても、それだけではプログラミングができるようにはならないものである。</p> <p>本ゼミでは、マイクロソフトエクセルに付属するVISUAL BASIC FOR APPLICATIONを使って、エクセルをもっと賢く使いこなすための裏技的な技法を教則本に従って学習し、次に、無料で手に入る本格的なプログラミング言語であるVISUAL BASIC 2013を使って、さまざまな課題にチャレンジすることによって、プログラミングの基礎の基礎を受講生に身につけてもらうことを企画した。</p> <p>2名の受講者のうちの1名は、パーソナルコンピューターの使用方法にかなり熟達していたが、もう1名は、ほぼ初心者であった。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>1名は、申し分ない意欲で課題に取り組み、ほぼ独力でさまざまな課題をクリアする力量を示した。教則本に書かれた事柄でわからないことがあれば、インターネット検索で必要な情報を手に入れ、問題解決に至ることができた。知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現のすべての項目で優秀さを発揮した。</p> <p>残念ながら、もう1名は、プログラミング技法においては、必ずしも期待したほどの進歩を示さなかった。プログラミングが何であるかについての基礎的な学習にはできたが、独力で個々のコードの意味を理解し、自ら応用するというレベルには達しなかった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>プログラミングの能力は、栄養士、管理栄養士に必ずしも必須の技能ではない。向き不向きがあり、仕事の現場において、あれば重宝されるという程度のものであろう。</p> <p>しかしながら、もし相当程度の技能を身につけることができたならば、今後、さまざまな応用が可能であり、自らのキャリア形成において大きな武器となりうるものといえよう。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

何分、担当教員が仕事に追われていて、十分な準備ができなかったことが悔やまれる。また、もっと時間に余裕があれば、もっとたくさんの課題に取り組むことが可能であったかも知れない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

プログラミング言語に習熟することは、パーソナルコンピューターを使いこなす上で意味のあることであり、将来のキャリア形成の上でも有利であると思うが、実際その能力を開花させるには、本人の意欲と努力が少なからず必要である。本ゼミでプログラミングの初歩に触れたことが、受講生の将来に少しでもプラスになるように期待したい。

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①基礎栄養・応用栄養・臨床栄養の中から自分の興味のあるテーマの一つを選び、それについて自分の力で文献を調査・検討し、自分なりの見解をまとめてゼミで発表し、最終的にパワーポイントの発表原稿と、それに基づいたワードの論文にまとめるという形式で実施した。</p> <p>②卒業ゼミの学生は、担当教員の示した卒業ゼミの方針を読んで受講しているはずであるが、授業アンケートの受講動機では、4人のうち1人だけが「関心のある内容であった」と回答したのみで残り3人は「単位数確保のため」ということであった。これから分かるように、最初は、自分から積極的に取り組もうという意識は強くなかったようであるが、後半になって調べている内容の理解が進んでくると、興味・関心が高まり、自発的にテーマに取り組んでいたと思われる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①提出されたパワーポイントの発表原稿、ワードの論文は、未完成な部分もあるが、自分なりに努力して作成されていた。</p> <p>②到達度の自己評価では、すべての項目が3.8点以上で、項目4～9に相当する“考え方”、“判断力”、“意欲”などの面で高得点であった。特に、講義系の科目では十分に達成できにくい“コミュニケーション力”、“表現力”などの学習ができたことは、卒業ゼミの利点だと思われる。</p> <p>③授業評価アンケートの“図書館の利用”の回答でも、4人のうち3人が利用したと回答している。テーマに関する文献検索については、図書館で実施された“文献検索の方法”や“論文の書き方”のセミナーを全員が受けるようにした。このことは、論文をまとめるにあたってかなり役立ったと思われる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門分野」の選択科目であるが、授業準備の項でも述べた通り、本科目は自分で選んだテーマについて、自分の力で文献を調査・検討し、最終的にパワーポイントの発表原稿およびワードの論文にまとめることが目標であるので、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績はおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」において、項目(3)の「説明の理解しやすさ」が3.8点と比較的高かった。その他に項目(4)の「授業への参加」、項目(5)の「学生との質疑応答」も3.5点と比較的高得点であることから、授業の目標はおおむね達成できたのではないかと考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門教育科目・専門分野にあたる本科目の目標は、4年間学んできたことの集大成ということである。あるテーマについて、これまで学んできた知識や自分で調べたことに基づいて、自分の力で論文をまとめることで、概ねこの目標を達成できたと思われる。反省点としては、テーマの選択を個人が自由に選べるようにしていたため、選ばれたテーマが広範囲にわたり、ゼミでの討論がやや散漫になる傾向があった。受講動機のアンケート結果からも分かるように、最初から明確なテーマを持って受講している訳では必ずしもないので、ある程度、関連のあるテーマをいくつかこちらから示したほうが、全体のまとまりがよくなり、ゼミでの討論も活発になるのかもしれない。今後の検討課題である。

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択		1

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPでの位置づけは、専門教育科目の中のその他であり、選択科目である。3年次までに履修した生化学、基礎栄養学の内容の理解の上に応用力を養うために、学生と話し合せてテーマを設定し、関連資料の抄読とディスカッションを中心としてゼミ活動を進めた。本年度は一人の受講生があった。受講動機は「関心のある内容である」であった。「代謝」を「糖尿病」、「アルコール摂取時」、「栄養バランスと肥満」などと関連づけて考え、理解することをテーマとして設定した。全期間を通して「考え、理解する」ことを学生に要求した。学生もそれに真摯に取り組んだ。</p> <p>②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、関心・意欲、態度、および技能・表現のすべてにまたがっている。本年度の卒業ゼミでは、特に、「DP1-2) 栄養管理、栄養教育のために必要な、専門的な知識及び技術を修得している」、「DP2-1) 健康に関する諸課題について、これまでに培った知識・技術をもとに論理的に思考し、判断することができる」、「DP3-1) 保健、医療、福祉に深い関心を持ち、健康増進及び疾病予防・治療に貢献しようとする強い意欲を持っている」、「DP4-2) 専門的知識・技術を高めるため、継続的に自己を啓発し、研鑽しようとする態度が身につけている」を問う内容に力点を置いた内容であった。受講生が最後まで投げ出すことなく研究発表にまでこぎ着けたことから、全体として、妥当な内容であったと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講学生の準備性は十分であり、そのことをゼミ活動の遂行に充分活かしたものと評価した。本科目の本年度の受講生が、予習・復習のために費やした時間は、50時間を超えていたものと考えられる。学生の授業評価アンケートにて、「到達度自己評価」では、全項目で3点以上であるので、概ね教育目標を達成できていると考えている。特に、項目(2)の「知識の確認・修正および新知識の獲得」および項目(2)の「専門分野で必要となる技術を身につけることが出来た」については5.0点と高い評価であった。知識理解 (DP1)、思考判断 (DP2)、意欲関心 (DP3)、態度 (DP4) および技能表現 (DP5) のすべてが十分であったと考えている。</p>
--	--

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPでの位置づけは、専門教育科目の中のその他であり、選択科目である。3年次までに履修した専門基礎科目、特に生化学、基礎栄養学および生理学の内容の理解の上に応用力を駆使して遂行すべき内容であった。</p> <p>②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、関心・意欲、態度、および技能・表現のすべてにまたがっている。本年度の卒業ゼミでは、受講生が栄養教諭を目指していることを勘案し、特に、「DP1-2) 栄養管理、栄養教育のために必要な、専門的な知識及び技術を修得している」、「DP2-1) 健康に関する諸課題について、これまでに培った知識・技術をもとに論理的に思考し、判断することができる」、「DP3-1) 保健、医療、福祉に深い関心を持ち、健康増進及び疾病予防・治療に貢献しようとする強い意欲を持っている」を問う内容に力点を置いた内容であった。全体として、妥当な内容であったと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

4年次の開講科目であるが、それ以前の3年次までに自主研究、自主ゼミなど何らかのかたちで、新しいことや研究に意欲的な学生に研究の場を共有する方法を模索したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本年度は、卒業ゼミ受講生が一人だけであった。本受講生は在学中ほぼ全体にわたって自身の健康状態で苦勞したが、最終学年でゼミを投げ出すことなく、教育実習にもこぎ着け、卒業もできたので、達成状況は概ね満足のいくものであった。

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	1

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講者は1名で、卒業単位の修得を目標にしており、積極的とは言えない。また、就職時の面接対策と卒業研究への少々の興味から受講していた。従って、学生の開校時の準備性は不足している。そこで、これまでの数々の卒業研究を紹介し、興味を引き出そうとした。</p> <p>②卒業研究に新たなテーマの範囲を加えた。それは新たな測定機材が加わったためである。</p> <p>③研究ノートを作成させ、毎週の研究学習から調べたことなどをチェックし、学習意欲を確認しながら進めた。</p> <p>④ゼミでは、就職試験時の面接対策を年頭に受講するものが多いが、その主眼を研究への興味から受講させるような、魅力を持たせたい。そのためのゼミ紹介の検討をしたいと思う。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>受験者は、単位修得が目的であったが、実験、解析、結果の考察等、一連の作業を積極的かつ首尾良く行ったことは評価される。また自己達成度では自己の専門分野日の参考になったこと、職業選択の上で参考になったことをあげており、目標の達成が成されたと考えた。</p> <p>実験棟の参加状況、参加態度、研究ノートの作成状況、実験の手法の定着性、解析の緻密性、結果に対する理解度や考察の広がりや評価の根拠とした。</p> <p>学生による授業評価においては、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がない。これは、思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて思考判断の目標を明確に伝えるよう工夫するようになりたい。</p> <p>なお、国家試験の受験と卒業研究が重なることはどちらに対しても時間的干渉が避けられない。大学生の卒業研究の意義の重要性を鑑み、カリキュラム上で開講期間の工夫を検討して頂きたい。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 専門と栄養学科生の特徴を融合した研究テーマを示していた。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高かった。昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、その領域の成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。 ゼミの内容はその研究室の特性から、受講生が選ぶものであるが、大学生が卒業研究をしなくても良いというものではない。しかしその選択が国家試験との兼ね合いで、半数以下の学生しか選択しておらず、卒業研究に至っては1名と聞いている。他大学では必修であったり、就職の面接での問項目であるにも関わらず選択されないのは非常に矛盾を抱えた開講状況と言える。今後の制度的発展を期待したい。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

一対一のゼミであつたためカリキュラムに概ね従いながら、個人的理解度に応じて進度を変えた。ゼミの場合は個人の進度が明瞭に感じ取られるため、このような進め方も有効と感じた。しかし、学習量は増えたとは示されなかったが、図書館等の利用を積極的に行つたので、学生が自覚できるような学習状態の提示をしていくことが必要かと考える。次年度への鹿大とする。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本授業によって、予習復習を行ったり、図書館を利用したり、積極性を感じられるような学習態度がみられたことは評価できる点である。しかし、卒業必修科目ではないことから、研究に注ぐ時間は積極的といえない。だが、就職時の自己アピールを積極的に行えるような学習内容を伝えられたと考える。
ところで、ゼミ選択が、本学栄養学科の学生は過半数以下となり、4年制の大学の卒業単位としてその意義を失いつつあると判断できる。ましてや卒業研究(卒論)を撮る学生が数名という状況では、大学の本質は卒論を軽視し、国家試験勉強に移行してしまっている。このような中での授業の評価は自ずと低くなると考える。科目、単位の意義、カリキュラム上の検討が必要と考える。

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、管理栄養士国家試験の受験科目ではない。自由選択科目であるが、例年ほぼ全員が受講している。四年次のアドバイザーは、基本的には、この卒業ゼミ担当教官が兼任することになっている。従って、担当教官は、ゼミ研究の遂行だけでなく、就職支援、国家試験合格支援を行うことになる。従って、受講動機が「関心のある内容である」75%となることは必然として理解できた。</p> <p>②週一回の国家試験対策の勉強会には、国家試験受験者は、前期は全員が参加し、後期はそれ(生化学)の学習を必要とする者9名が参加した。</p> <p>③ゼミについては、文科省指針に従って、2単位分の実験実習科目と同等の扱いとするために、72時間30分+実験に関する打ち合わせに要する時間＝80時間として、その時間内でひとつの研究が遂行されるように指導し実施した。実験のとりまとめ(レポート作成)の時間は、この80時間には含めてなかった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①例年、就職が順調に決まらない者と、管理栄養士国家試験のための学習が思うように進まない者は、途中で本科目の履修を放棄して、就職活動もしくは国家試験対策の学習に集中する。今年度の放棄者は4名(23%)であったが、これは例年通りの数値であった。今回の放棄者はいずれも就職が決まらないため就職活動に専念するために、本科目を放棄したが、就職支援の効を奏して、4名全員が卒業までに就職内定を勝ち取ることができた。</p> <p>②最後まで放棄せず、受講した者の最終成績の平均値は86点であり、全員が標準的レベルに達したが、90点以上の秀評価が13名中7名、80点以上90点未満の優評価2名と、理想的なレベルに達している者が70%という好ましい結果であった。</p> <p>③学生による授業評価においては、「到達度自己評価」において評価項目10項目すべてについて中央値を下回った。受講生が十分満足できなかった理由は、授業の質評価から伺えた。つまり、評価項目(4)「自分の意見をまとめる、話し合う、発表する、など学生が参加する機会が作られていた」のみが中央値を超えており、その他4項目ではすべて中央値を下回っていた。</p> <p>④次年度の改善目標項目は、授業の質評価(1)(2)(3)(5)の4項目が目標となった。このうち(2)(3)の項目については、実験の自主的な進め方についての初期ガイダンスが不足だったことが原因である。(1)(5)の評価項目は改善すべきであり、早速、取り組みたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は選択科目であり、学習の動機付けは容易であり、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えた。</p> <p>②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から「知識理解」「思考判断」「意欲関心」「態度」「技能表現」ともに達成度が高かったこと、昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、内容的には妥当であったと考えた。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われた。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①自由選択科目であるが、受講学生のアドバイザーとしての任務を兼ねるため、就職支援と国家試験合格支援のために割く時間は、かなりの時間となり、その労力も測り知れないほどに大きい。そういう意味では、大変責務の大きな科目となるが、今後も学生の進路支援を充実させる方針は変えない。
②受講者は、就職活動と国家試験対策の学習という大変忙しいなか、質の高い研究を成し遂げてくれた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

①途中、受講放棄した学生があったものの、17名全員が就職内定を勝ち取ることができ、かつ、国家試験受験者13名全員が(自己採点の結果では)合格し、これまでと同様の素晴らしい結果を生むことができた。
②受講生が多く、目の行き届かないところがあったので、今後は卒ゼミの受講者を5名前後と少数精鋭化して、より細かな指導ができるような体制に変えて行くことにした。

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、これまでの専門基礎科目および専門科目で学んだ中で、学生が関心を持った領域から、担当教員との話し合いでゼミのテーマを設定し、年間を通して調査・研究を実施することにより、専門的知識ならびに理解を深めることを目的としている。また、自己啓発に努め、実社会において、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることも目標として掲げている。</p> <p>本科目は、選択科目ではあるものの、大学入学以来履修した全ての科目で学んだことの集大成としての位置づけであり、学生は開講ゼミの中から、関心を持ったゼミを選択している。そのため、当然のことながら、全員の受講動機は「関心のある内容である」との回答であった。また、ゼミテーマ達成のためには、自主的な学修は必須であり、学修準備性については、ほとんどの学生が積極的に取り組んでいた。図書館およびインターネットの利用も積極的に行い、問題解決に向けた努力が認められた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の成績は、全員(100%)が理想的レベル(80点以上)に到達しており、学生の学修の成果は十分に反映されていたと考えられる。学生は提示された様々な課題に対し、十分に予復習時間を確保し、積極的に取り組んでいた。本科目に対する準備性の高さが窺え、これらのことが学生の成績へと表れたものと推察される。このことは、学生の到達度自己評価においても同様の結果を示しており、全員の学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたと回答していた。以上のことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、大学入学以来履修した全ての科目で学んだことの集大成として位置づけられており、年間を通して調査・研究を実施することにより、専門的知識ならびに理解を深め、実社会において、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることを目的としている。様々な課題に対し、積極的に取り組み、解決へと導くことは、将来、管理栄養士として直面する様々な課題を解決する能力を養うことに繋がったものと思われる。また、様々な食に関するゼミ活動を通して、管理栄養士に必要なスキル等を学んだことは、専門的知識・技術修得の重要性の気づきになったものと考えられる。このことは、学生の達成度自己評価の「職業選択」の項目において、全員の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、全員の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、内容的妥当性については問題ないものとする。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は、大学入学以来履修した全ての科目で学んだことの集大成として位置づけられており、年間を通して調査・研究を実施することにより、専門的知識ならびに理解を深め、管理栄養士に必要な問題解決能力を身につけることを目標としている。本科目の学修準備性として、予復習時間の確保ならびに積極的な学習の取組を実現したことにより、全員の学生が理想的レベルを達成した。同様に、達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答した。様々な課題に対し、積極的に取り組み、様々な食に関するゼミ活動を通して、管理栄養士に必要なスキル等を学んだことは、将来、管理栄養士として直面する様々な課題を解決する能力を養うことに繋がったものと思われる。以上のことから、本科目の内容等についての課題はないものとする。

学科	栄養学科
氏名	久保 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>各自設定したテーマについて、文献検索など情報収集し実習・演習を経てレポートを作成し添削指導した。併せて国家試験対策指導や就職活動指導を行った。受講動機は「関心のある内容である」60%、「単位数を確保する」40%となっており、学習準備性に差がみられたため個々の進捗状況に併せて個別指導に力を入れた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の平均点は73(±8.1)点であり、A評価40%、B評価20%、C評価40%であった。到達度自己評価において、自分なりの目標を達成した「かなりそうだと思う」40%、「わりにそうだと思う」20%、「まあそうだと思う」40%となっており、他の項目についても80～100%の達成度となっている。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機は、「関心がある内容である」60%、「単位数を確保する」40%であったが、学習到達度の自己評価において「自分なりの目標を達成したについて」かなりそう思う」40%、「わりにそう思う」20%、「まあまあそうだと思う」40%と評価しており、内容的妥当性に問題はないと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

各自の自主性を重んじ、年度初めに年間計画を作成しそれに沿って活動することとしている。きめ細かな個別指導を行っていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

受講動機に関わらず、全員が自分なりの目標を達成したとしている。特に国家試験対策や就職活動に対しては、個々の意欲や現状を把握し、個別の指導を行った結果であるとする。更にきめ細かな指導を進めていきたい。

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①卒業ゼミは、4年次の選択科目であり、学生が興味のあるテーマを選択する。受講動機は「関心のある内容である」3/8名(37.5%)、「資格取得に必要である」2/8名(25%)であるが、他には「必修科目である」が1名(12.5%)、「単位数を確保する」2/8名(25%)であった。単位数確保だけを動機にゼミを履修してしまうと、活動していく中でゼミ活動への意欲が失せる可能性もあり、結果としてゼミ全体のモチベーションの維持が難しくなるので、ゼミを履修前の説明時(面談時)に、より詳しい説明を行い、意志の確認をしていく。またゼミでは、ゼミ活動以外に相談や国家試験対策等のサポートを行ってきた。今後も学生たちの大学生活でのサポートを継続していく。</p> <p>②ゼミでは、福祉学科が実施しているほほえみの会(低出生体重児とその保護者の会)で、福祉や看護の学生たちと協力して、栄養や食事のサポートだけでなく遊びのサポートも行ってきた。学生たちは、このほほえみの会の活動を行っていかなかで、自然とチームで活動することの大切さを(3学科協働の精神)身につけることができたと考えられる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(関心意欲)、DP4(態度)、DP(技能表現)すべてにおいて、準備から実施にいたるまでのゼミの活動や提出物によって評価した。特にDP3および4についての自己評価が高く、履修する時の関心は低かったものの、学生個々人がゼミ活動を実施していく中で、課題を検討する意欲や学びをふかめる意欲が芽生え、必要となる技術も身につけ、成長できたものとする。ゼミ活動が就職選択の参考になった「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答する学生が5名/8名おり、この回答からも学生が意欲をもってゼミ活動を行ってきたことが推察される。</p> <p>②ゼミ活動においてはシラバスの計画通りにはいかないため、前期スタート時に年間のゼミ計画の概要を説明する。よってシラバスを参考にした(0%)の回答は、やむを得ない。課題学習や自己学習のために図書館やインターネットを多くのゼミ生が利用している。今後は学術的視点からもっとデータベースの検索利用回数を増やせるよう、学生たちに教え使用を促していく。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、4年次の選択科目である。本科目履修者の学習到達度から、選択教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは同えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

上記4にも記載したが、ゼミ活動においてはシラバス計画通りにはいかないため、前期スタート時に年間のゼミ計画の概要を説明する。よってシラバスを参考にした(0%)の回答は、やむを得ない。課題学習や自己学習のために図書館やインターネットを多くのゼミ生が利用している。今後は学術的視点からもっとデータベースの検索利用回数を増やせるよう、学生たちに教え使用を促していく。ゼミの活動時間は、3学科の協働の時間であり、栄養学科の学生個々人との時間をなかなか持つことが出来なかった。今後は、ゼミ活動以外にもゼミ生と接する機会を増やし、ゼミ活動、国家試験勉強、就職活動など様々な面で学生のサポートをしていきたいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目の位置づけは、4年次の選択科目であり、学生が自ら希望するテーマ(教員)を選択していく。選択科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。これからも学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、ゼミ(授業)改善を行っていく。

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ライフステージ別の食教育を含めた料理教室の運営活動を行っているが、企画～準備～実施～評価～改善を通して、学生の自主性を重視して指導を行っている。履修学生は員の受講動機は「関心のある科目である」であり、取り組み意欲の高さが窺われ、担当教員の指導方針との整合性が得られていたと考えられる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価から、「知識の確認・修正」ができ、「課題検討する力」「判断力」が身に付いたと評価する者が多くいた。また、「コミュニケーション力」「行動規範」等を学ぶことができた」と評価された。これらは、DPの目標に到達したとする十分な判断材料であると考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>4年間の学習内容を総合して取り組むのが卒業ゼミであると考えらる。本ゼミ活動は大学生活で得た知識・技術を実践する活動内容であることを重視しているため、到達度の自己評価の結果から、内容的に十分に妥当であると考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価から、特に「話し合う」「質疑応答」の機会が十分に確保できていたと評価された。多職種と協働で仕事を行っていく必要があるため、その訓練ができたのではないかと考える。これは、担当教員への意見の内容からも支持される。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本ゼミは、活動内容が多い上に、学生の自主性に重きを置いているため、時間外での話し合いや作業が多く求められる。履修学生が毎年入れ替わることを考えると、学生の資質によっては負担に感じる内容である可能性がある。この点が検討課題である。

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は自由選択科目であり、4年時での選択のため卒業単位数も充足している中での履修であるため、全員が受講動機について「関心のある内容である」(100%)を挙げており、学修準備性は十分に高いと考えられる。また、卒業ゼミのテーマ公開時に地域栄養活動の実践であることは説明しており、過去のゼミ活動を参考にしながら「料理教室が実践してみたい」「栄養指導能力を身につけたい」などの個々の目的をもって履修登録をしており、専門分野における課題解決能力、健康増進に寄与する意欲、必要な技術の習得などCP上の位置づけも適切であったと推察される。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の学習目標達成状況は、全般的評価(自分なりの目標を達成した)は4.0点と高く、DP1が(知識の確認・習得)4.7点と(事象を理解する力)4.0点、DP2が(課題を検討する力)4.1点と(的確に判断する力)3.9点、DP3が(学びを深めたい意欲)4.3点、DP4が(職業倫理・規範)4.1点、DP5が(専門分野に必要な技術)3.9点、と(コミュニケーション能力)4.0点と、どれも高い達成度であった。むしろ、実践的な地域栄養活動であったことから、地域栄養活動の目標(若い世代が食育に関心を持つ、若い世代の野菜摂取量の増加など)の達成は容易ではないことを身をもって知ったため、活動内容のハードさに比べ、自己に対して厳しい評価を下した点を感じ取れる。</p> <p>また、各自の担当部分を進めるにあたり、図書館等の調べ学習に基づいた意見交換の場を設けたり、北九州市保健福祉局管理栄養士との話し合いの場もあったことから、参加型学習としての質の確保は十分達成されたと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>これまでの公衆栄養学ⅠおよびⅡ、公衆栄養学実習および地域栄養活動論の実践編として位置づけられ、卒業ゼミのテーマ公開時において「若い世代の食育実践」「ESDステーションでの食時診断会の実施」等、地域栄養活動の実践を行うことを説明しており、学外での活動であることを十分に理解した上での履修であることから、受講動機の準備性は適切である(関心のある内容100%)。さらに、地域活動の実践では不可欠である科目を横断した知識や技術を会得した上での実践により、さらに栄養士・管理栄養士として不足している点への気づきを促すことができ、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけに対する内容的妥当性は高いと考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価、学習量の評価は、どれも高い評価であり、学生自身による学習の進行、および技術の習得を進め、授業運営は適切であったと考えられる。しかし、最終活動報告書の作成を行った割には、図書館の図書・雑誌の利用2人/7人中、CiNiiなどデータベース利用0人/7人中、インターネット検索4人/7人中であったことから、次年度には参考図書やサイト、文献検索の方法等についての情報提供を適宜行うように改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門科目の集大成である本科目(卒業ゼミ)は、自発的な学びと活動の実践を進めながら、専門知識と技術の習得を実践的に行うものであり、各学生の高い目標達成度からも授業の質は十分適切であると考えられる。次年度は、データベース利用など図書館資源の活用を高めるように、進めていきたい。

学科	栄養学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業ゼミ	4	通年	選択	いいえ	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①卒業ゼミでは、栄養疫学の知識を生かして、大腸癌の疫学と2型糖尿病の疫学について研究した。</p> <p>②週一回の抄読会を行い、先行研究について発表をおこなった。</p> <p>③学生たちの勉強意欲を高めるため、ゼミ中の質問や討論を増やした。</p> <p>④調査資料の整理、エラーチェック、統計ソフトの使用などについて、できるだけ自分がすることに徹底した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①発表成績の平均値は94点であった。論文の読み、説明は非常に良かった。</p> <p>②昨年度と比べると、成績平均点は上昇した。</p> <p>③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も100%で、知識理解、思考判断、技能表現、関心意欲については目標が達成されたと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「演習」であり、実践能力、判断能力及び論理的思考能力を訓練する科目である。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断、技能表現に関し、目標は達成した。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が5.0で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.8であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は5.0で、授業の内容はよかったが、「説明は理解しやすいものであった」の平均が5.0であった。次年度に向けては、もっとゼミ生が自分で考え、自分で計画をして、研究をすることを推進したい。

学生の意見として、もうちょっと自分から手を動かして行くことが大事という意見があり、次年度からは改善して行きたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

ゼミである本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面、技能表現の面では課題をおおむね達成したが、態度については、課題が残した。今後、学生の態度の向上を目指していきたい。

授業過程を振り返ってみたとき、授業中、勉強内容が少し狭い範囲で、今後、幅広い知識を吸収するよう努力を行っていきたい。
講義スライド、配布物(授業の参考資料)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進度と内容説明について改善して行きたい。

学科	栄養
氏名	田川 辰也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習VI	4	後期	選択	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①4年生になって、国家試験の受験を目標に、公衆衛生学および病態医学の知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な公衆衛生学および病態医学知識および考え方を修得し、国家試験問題に対応できるように心がけた。 ②初回の授業の最初に学習準備ため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。 ③授業の最初にテストを行い、その後テストの解説を行い、学生の意識を高め、学習状況を確認するようにした。 ④授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は70(±10)点であった。理想的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達したものは60%を超えた。 ②昨年度と比べると、本試験の平均点は同等であった。 ③学生による授業評価においては、「過去問を解いて復習をした」という意見を多くいただいた。今後とも、わかりやすく、復習しやすい資料作りと授業内容に心がける。 以上から、教育目標は達成されていると考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」である。選択科目であるが、管理栄養士国家試験を受験するために非常に重要である。学生の受講動機は国家試験受験資格を取得するためである。授業内容は国家試験に出題される内容であり、その重要性は学生にしっかり伝えていく。定期試験にて学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、知識判断、思考判断、態度に関する達成度が高かった。毎年国家試験の動向を見ながら、内容を修正しており、内容的には妥当であったと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.6、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたと意欲をもつことができた」の平均が3.5と高かった。学生の成績を踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、学生がより学習意欲を持ち、国家試験に臨めるモチベーションを持てるように改善していきたいと考える。

学生の意見としては、「過去問を解いた」が多く、学生が授業の内容を踏まえて、国家試験に向け、しっかり取り組んだことがうかがえる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、結びつきの強い科目である後期の「管理栄養士演習Ⅵ」に引き継いでいく予定である。

授業過程を振り返ってみたとき、毎回授業の最初にテストを行ったことで、学生が検討を加える時間できた。今後は予習課題の提示などで改善を図りつつ、復習をやりやすくするなど、さらなる改善に努めたい。

以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、テストで考える時間をとり、復習課題を意識的に提示するようにすることを今後とも続けていきたい。
配布物(授業の参考資料)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて改善を行いたい。

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅶ	4	後期	選択	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の受講動機をみると「資格取得に必要である」と答えたものが80.4%、次いで「必修科目である」が26.8%であった。一方、「関心のある内容である」は、10.7%であった。本科目は選択科目であり、国家試験受験資格を取得するための必須科目でもない。したがって、履修動機としては「国家試験に合格するために学力を向上させるため」ということが最も大きいと考えられる。しかし、アンケートの選択肢にそのような項目がなかったため、「資格取得に必要である」を選んだ学生がほとんどになったものと考えられる。「関心のある内容である」と答えたものが多いことが望ましいが、実際は、1割程度の学生しかそれを動機としていない。解剖生理学、生化学、基礎栄養学の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でも重要であることを、できるだけ具体的な事例を挙げて説明していくことが重要だと思われる。</p> <p>②解剖生理、生化学、基礎栄養学などの基礎科目は、栄養学科学生の苦手とする科目であるが、これまでに学んだ内容を復習するためのオリジナル練習問題、管理栄養士国家試験の過去問などを題材に、ただ単に丸暗記するのではなく、からだのしくみを理解し、将来の管理栄養士としての実践活動に役立てることを念頭において講義している。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	達成された	達成された	どちらともいえない	やや達成された

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>試験成績の平均点は、86点(±7)で、全員、本試験で合格した。80点以上のものが58名、70点～79点が11名で、全員が70点以上であった。</p> <p>学生の授業評価アンケートにて、「到達度自己評価」では、項目(8)および項目(9)以外は、平均が3点以上であるので、概ね教育目標を達成できていると考えている。特に、項目(2)の「知識の確認・修正および新知識の獲得」については3.8点と比較的高い評価であった。</p> <p>また、「学習量の評価」で、50%強の学生しか30分以上の予習および復習を複数回実施していないことから、本科目に対する意欲・関心の啓発の達成度は、やや不十分であると考えている。</p>
--	--

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門分野」であり、選択科目である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。期末試験の成績において学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績はおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン
ターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」において、項目(1)の「評価基準」、項目(2)の「学習の範囲・課題」および項目(3)の「説明の理解しやすさ」は、それぞれ3.2、3.2、3.7であった。解剖生理、生化学、基礎栄養学などの基礎科目は、栄養学科学学生の苦手とする科目であるので、よりわかりやすい説明を心掛けていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門教育科目・専門分野にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識を生きた知識として実践現場に活かせるように、できるだけ実際の事例に関連付けながら演習を進めていく必要がある。

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅷ	4	後期	選択	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、管理栄養士国家試験を受験する者を対象としたものであり、授業の内容は、国家試験合格を目指して、類縁科目を総合的に理解・把握するよう設計されている。従って、受講動機が「資格取得に必要である」81%に偏っていることは当然として理解できる。</p> <p>②4名の教員によるオムニバス形式の授業であり、全体の様式を統一して受講生が戸惑わないよう配慮して学習の便宜を図っている。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとって極めて重要な科目であり、前期においては国家試験の過去問の理解に重点をおいて授業を実施している。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は選択科目であり、方が一単位取得が出来なくても国家試験受験資格を失うことはない。国家試験直前であり受験生の気を緩めさせてはならない時期であることから、担当教員の申し合わせにより、質の高い設問を設けること、難易度の高い設問を設けること、の2方針のもと定期試験問題を作成した。その結果、最終成績の平均点は55点であり、合格者27名、不合格者44名であった。これは昨年の結果(平均点55点、合格者24名、不合格者45名)と、ほぼ同じ結果であった。「食べ物と健康分野」の正解率が一昨年の24%から29%へと、やや改善が見られた。「応用栄養学分野」の正解率は、一昨年の73%から70%へと僅かな差が観られた。昨年の国家試験合格率が100%であったことを考えれば、今回の到達度は十分満足できる結果であると判断できた。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」において評価項目10項目中5項目について中央値を0.1～0.5ポイント超えていた。中央値を下回っていた項目は5項目あったが、いずれも僅かな差であった。ひとつだけ留意すべき項目は評価項目(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」であり、中央値を下回る度合い(0.5ポイント)が最も大きかったが、前回も同じ評価項目で評価が低かった。しかしながら、この評価項目は、本授業が到達目的としているものとは異なり、特に改善策を講じる必要はないものであると考える。「授業の質」評価については、中央値を超えたものが2項目、下回ったものが3項目であったが、いずれも僅かな差であり、特に対処法を検討するほどのものではなかった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は国家試験受験対策の科目であり、全員が国家試験に合格するためには、全員が標準以上の成績評価を得なければならない。学習の動機付けは容易であり、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から「知識理解」の達成度が高かったこと、昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン
ターネット利用」学生の意見など

①国家試験の結果が本科目のすべてであるが、全国模試や校内模試の結果を
観て、本授業の質的判断と対策を練りながら授業を進めている。今後も
その方針は変えない。

②前回、学生から挙がっていた「質疑応答の時間が足りない」との指摘は
今回はなく、改善されたものと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

これまで試行錯誤しながら、さまざまな問題に対してそれぞれ工夫を
施して対処してきた結果、国家試験の結果に反映するようになった。
本年度も昨年度と同様に実施し、良い結果が得られると考える。

学科	栄養学科
氏名	坂巻 路可

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅹ(Aクラス)	4	後期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、管理栄養士国家試験教科の「栄養教育論」および「臨床栄養学」分野の出題傾向とポイントを理解することを目的としている。</p> <p>本科目は管理栄養士受験資格の必修科目としての位置づけであるため、多くの学生の受講動機は「必修科目である」「資格取得に必要である」との理由が半数以上を占めている。また、後学期開講のため、国家試験が近づいていることもあり、本科目と同様の位置づけにある前学期開講の「管理栄養士演習Ⅳ」に比し、予復習時間ならびに自発的学習は確保されていた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は85.8(±8.5)点であり、大多数の学生が理想的レベル(80点以上)に達することができたものと推察される。学生の到達度自己評価では、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得ができており、また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しているため、自発的学習として、授業の課題以外に国家試験の過去問を解く等の学習に取り組んだ学生は60%以上にも上った。このことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、4年次後学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答し、試験成績においても理想的レベルを超えていたことから、内容的妥当性については問題ないものと考えらる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結していることから、授業の課題以外に国家試験の過去問に取り組んだとの自由記述が多くみられ、予復習の時間は確保されていたと考えられる。図書館の図書・雑誌や図書館から利用できる学術データベースの利用については、利用者は10%未満であったため、自己学習の動機付けとしても予復習時の図書館の積極的な利用を促していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は、管理栄養士国家試験の受験資格の必修科目であり、専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講している。また、本科目の内容は管理栄養士国家試験のための学習と直結しており、学生自身の資格取得のための科目として位置づけられていることから、学生の成績も良好である。また、達成度自己評価においても、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、講義内容等についての問題はないものとする。

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
管理栄養士演習Ⅹ(Aクラス)	4	後期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>管理栄養士受験資格必修科目であり、卒業必修ではないが、受講動機において必修科目であるが83.1%、資格取得に必要が59.3%となっている。本科目を履修している学生は、管理栄養士国家試験受験希望者のみであるため、必修科目＝資格必修と考えると推察される。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>本科目の平均点は78.1(±10.0)点であり、概ね目標は達成できた。学習到達度の自己評価においても、「知識の確認、修正、習得」は100%と高く、学習量においても準備をしなかった者が6%、復習をしなかった者は1.5%と低かった。高いモチベーションで学習できたと評価できる。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は4年後期開講であり、大学全期間を通しての最終的な仕上げ科目である。管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目で、専門職業人である管理栄養士としての就職が内定している学生も多いことから、受講動機および学習到達度も高く、内容的妥当性については問題がないと考えられる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

科目担当者は、国家試験対策全体をコントロールしていることから、授業の際に、国家試験全体について、授業以外の補講について、またその授業態度について厳しく指導することがあったが、最終的に国家試験では高い合格率を納めることができたため、必要なことであったと認識している。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目における授業方法は、国家試験の合格率が高かったことから、効果を上げていると考えられる。次年度以降も、現在の方法を基盤とし、各項目の分析をさらに詳細に行い、国家試験対策へ反映していきたい。

学科	栄養学科
氏名	久保田 理

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅱ(Aクラス)	1	後期	必修	はい	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①1年生の必修科目であるため、受講動機はその点に集中している。 ②チャペルアワーと関連付けられた科目であるため、聖書を読むこと、讃美歌を歌うこと、祈禱をすることの実践を毎回の授業で行うことで、チャペルアワーへの出席意識を高める。 ③キリスト教に対する理解を持つことを目的に、キリスト教の礼拝で行われていることについて段階的に講義を行う。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均点は78点であり、再試対象は0名であった。 全員が標準的レベルに達していた。 知識理解という点では十分な理解が得られたと考えられる。 実践の点では授業期間中に提出する「教会訪問レポート」を実施することで、キリスト教礼拝を体験することが授業内容の確認につながったと考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」の「文化と宗教」であるが、本学の建学の精神である「感恩奉仕」を学ぶ科目であり、必修である。多くの学生がキリスト教に馴染みがないため、社会との接点を示しながら理解の助けとしたことから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容の妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価における平均値は問題がないと考えられる。

学習量の評価では、予復習時間時間の解答に「0回」が多かったこと、また自発的学習の解答に「していない」が多かったことから、授業の内容をチャペルアワーに明確に関連付けることが必要であると考え。また、学生の意見でも「何をすれば良いかわからない」があったことから、この点は課題とすべきであると考え。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

キリスト教主義学校としてキリスト教理解の入り口となるのが本科目の位置付けである。その意味では知識理解の形成では達成出来た。また、チャペルアワーの出席と合わせて、キリスト教礼拝の実際にもふれる機会があり、理論と実践の実施も出来ている。キリスト教の価値観を学ぶことは、新しい視点を得ることにもつながり、判断の多様化を促すことにもなっている。
ただし、そのことを得たと実感することとは別になっている面もあり、本科目の課題として考えて行きたい。

学科	栄養学科
氏名	柳澤 伸一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ジェンダー論	1	後期	選択	はい	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機では、「単位数を確保する」を挙げる者が97%であるのに対して、「関心のある内容である」を挙げる者は10%にとどまる。大多数の者に初めから積極的な受講態度を期待し難い状況の中で、新聞記事を始め、できる限り最新の情報を使って、ジェンダーが現在の女性の生き方に深くかかわる今日の問題であることをつかめるよう心掛けた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績は、秀が6%、優が20%、良が60%、可が11%、不可が3%であった。他学科に比べて、秀・優が少なく、良に集中した。到達度自己評価では、大半の項目が中央値前後であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、総合人間科目の一つで、DP1に係わる位置付けがなされている。到達度自己評価の平均値は、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目が3.4、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の項目が3.3で、内容的妥当性は一応あったと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業は、毎回、テーマに沿って、レジュメ1枚と関連資料数枚を配布し、基本的に講義形式で進めた。資料の作成に関しては、最新の新聞記事も使って、ジェンダーをめぐる今日的諸問題が捉えられるようにした。授業の中で使ったキーワードについて、配布資料を読み込んで説明させるレポートを課したことは有益であったと思われる。予習・復習に関しては、学生任せにしたきらいがあり、教員には、課題を具体的に与える姿勢が求められた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

講義を通して、ジェンダー問題について基本的な知識を与えるという課題は、最低限達成できた。しかし、アクティブラーニングを促す工夫では改善の余地がある。

学科	栄養学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
アジアの歴史と文化	1	後期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1. アジアの歴史と文化の概要及び達成すべき目標とは、「アジアの自然や地理、民族、言語の導入を再確認し、この地域における国々の制度や歴史、文化などの多方面から、真のアジアを正確に認識すること」である。学生の「受講動機」において、④「単位数を確保する」の89.7%を除いて、③「関心のある内容である」は6.9%であった。この数値はあまり高くはないが、アジアに対する関心があることは大切なことである。 2. 授業に関する課題やレポートなどの内容を正確に指導できるよう、また、口頭・文書などの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会を作られるよう、今後工夫していきたい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 最終的な成績の平均値は80.4点であった。そのうち、80点以上は18名、70点以上は9名、60点以上は3人ということから、標準レベルに達していた。 2. DP-1の【知識理解】をみると、将来の保健・福祉を支えるための基本的知識を習得していた。 3. 学生による授業評価においては、「授業に参加するために1回30分程度以上の復習を「週6回」は11人で、「授業の記録作成で自分なりのノートを作成した」が21人であった。以上から、全体を通してやや目標を達成し、知識理解もやや達成されたといえる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は3.3点、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は3.5点、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は3.4点であった。一方、「授業選択の参考になった」は2.7点であった。以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

1. 授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は3.6点であったが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合うなどの機会がつけられていた」は2.8点であった。次年度は、授業内で授業に関するテーマを学生に発表してもらう時間を確保していきたい。2. 「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」で「していない」は27人であった。授業に関連のあるテーマを指示し、授業外の学習に取り組めるよう促していく。2. 情報・図書館利用はほぼ全員が積極的に利用していた。引き続き、授業と関連している他の知識やデータも重視すべきであることを学生に喚起していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

アジアの歴史と文化の標準的レベルは、「アジアに属する地域や国々を、正しく地図上で説明できる。また、多様な分野におけるアジアの歴史と文化の特徴を述べることができること」であり、これは達成できていたと考えられる。また、次年度は教師の一方的な授業形式ではなく、学生の意見や質問を取り入れられるような場面を設けていきたい。

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康科学実習Ⅱ	1	後期	選択	はい	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講者は、夏休み明け、後期末に体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係を把握できるようにした。</p> <p>②各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させることによって自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。</p> <p>③1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。</p> <p>④Ⅱでは職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は88(±7)点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは85名と、欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。</p> <p>目標別に見ると、知識理解に関しては100%、思考判断に関する問題は100%の者が達成したと自己評価している。意欲関心では97%に減じたが、種目やその歴史なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。</p> <p>学生による授業評価では、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて、ルーブリックで示すだけでなく、各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。</p>					
<p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、管理栄養士として運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報科学演習Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本授業は、1年次後期開講の選択科目であり、今回の履修生は30名、受講動機は「単位数を確保する」が86.7%、次いで「関心のある内容である」が23.3%であった。</p> <p>授業の実施で大切にしていること、重点を置いたことは、社会(職場、家庭、地域)と自分との関係について、気付きや思考する機会があるように教材を工夫した。具体的には、タイピング教材には「男女共同参画基本法」を、Excel(統計処理)の教材には、①国立女性教育会館で作成・公開されている「ミニ統計集 日本の女性と男性」および、②実際のクレジット会社と銀行の金利を使った利息計算、そして自分の住む町について調べ分析し課題を見つけ、その課題解決について企画書およびスライドを作成する演習を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された		達成された

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>シラバス記載の行動目標について授業アンケートの際に各自で3段階評価した結果、出来ると回答した割合は以下の通りである。なお、出来ないと回答した学生は皆無であった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 33%:社会および家庭での情報活用について紹介できる 71%:インターネットを利用する上での危険とマナーについて説明できる 58%:分かり易いリーフレットおよびスライドの作成ができる 79%:適切に情報検索することができる 29%:公開されている統計資料を適切に読み解くことができる <p>成績の平均値は78点、A評価はいなかったものの、B評価43.3%、C評価50.0%であった。</p>
---	---

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は1年次後期開講の総合人間科学に属する科目である。</p> <p>1年次前期の情報科学演習1では、学生生活に必要な内容(学生としての自分と学び)を重点にし、後期の本情報科学演習2では社会と自分との関係に重点を置いた内容にしている。</p> <p>前述の学生の目標達成状況から、DP,CP,カリキュラムマップ上、内容的に妥当だと考えている。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

改善課題として、図書館の協力の下、前期の情報科学演習1では図書検索の演習を、後期の本情報科学演習2では文献検索の演習を行ったが、①1年生に文献検索演習は難しく、その大切さが実感できない様子であること、②選択科目で履修生が30名と少ないことから、図書館に依頼し快諾を得、2016年度では、2年次後期の必須科目「健康情報処理実習」の中で、文献検索演習を行うように学内講師の手続きをしている。

「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」にコメントした学生が7名おり、「何をするか分からない」「することがなかった」という内容だった。演習科目であり、課題をすることで目標が達成できるように授業計画を立てているので、課題を優先し、余力があれば課題以外の学習をすれば良いと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成状況はおおむね良好だと考えている。

前述の通り、1年前期開講の情報科学演習1では学生生活に必要な内容を、本科目では、一般的な社会人として必要な内容を教授している。一方、半期ごとに行われる授業評価には「自分が学ぼうとしている専門分野において・・・」との文言が多く、「管理栄養士になりたい」「資格をとりたい」と胸を膨らませている1年生に、専門科目以外は不要な科目との価値基準を植えつけている可能性が否めない。栄養学科のカリキュラムポリシーの項目1では「総合人間科学の科目を通して、社会人としての基礎的な教養と知識を身につけるとともに・・・」と記載されているが、アンケート調査の項目で一般的な教養の能力を問う項目は見当たらない。全学の共通認識として総合人間科学の開講の目的(本学の教養教育の目的)を明確にして頂き、担当教員に示して頂ければと思う。
現在の授業内容は、専門職者に特化した内容ではないため、各学科で目指す専門職者に必要な基礎教育の教授であるならば、本授業計画を見直す必要がある。

学科	栄養学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機を見ると、「単位数を確保する」63.0%、「資格取得に必要である」37.0%であった。教職必修科目ではあるが、栄養教諭志望の学生はあまり多くなく、単位取得目的の学生が多い点で他の2学科と異なる。後期開始前に国会で成立した「安全保障法制」をめぐる憲法解釈の問題や、2016年度から選挙権の年齢が18歳に引き上げられることを念頭に置き、憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深いことを伝えることに腐心した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>後期試験の平均点は60.35点、再試対象者は4名であった。また、設問がやや難解だったか、理想的レベル(80点以上)に達した者は0名であった。知識理解を文章で論述してもらった問題形式であったが、基本的な知識の理解がやや不十分な答案が散見された。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が3.3、他の数値も多くは3.0-3.2と他学科に比べてやや低い。これは資格取得よりも単位取得を動機として受講している学生が多いことに起因していると考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。しかし、「単位目当て」で履修する学生が多い一方で、履修の際にシラバスを参考にした学生が半数以下であることから、学部学科全体で履修登録の際にシラバスを学生に読ませ、理由の際の参考にするよう、働きかける必要がある。将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であるとする。よって、内容的妥当性には問題ないとする。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価のうち、「評価基準は明らかであった」の平均が3.3「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.2であった。他方、「学生が参加する機会が作られていた」の平均が2.7とやや低い。これについては、看護学科・栄養学科同時開講のため、履修者が多数になることから、講義の性質上、学生の参加の機会を設けるのは困難であると考えている。また、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均が2.8であった。かつて質問を受け付けていたら、質問が殺到し、担当教員の体調や他の業務に支障が出たことがあったので、教員の業務の負担にならない程度で、学生の質問を促す方を考えたい。授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習について「復習」を行っている学生がいる一方で、授業以外に学習していない理由として「必要なし」「他の課題があったから」「時間がなかった」という意見が散見された。これについては、予習・復習の具体的な仕方について、今後の講義で説明していきたいと考えている。学生の意見として、「今話題になっている憲法改正や選挙権の引き下げについて知らないことがたくさんあったので、くわしく話を聞けてよかったです」との意見が見られた一方で、「とても早口で何を言っているか、あまりわかりません」「私的な意見が多く含まれていて公正な講義として成り立っていない」との意見も見られた。話すスピードについては、教員側も改善の余地があるが、学生の講義に対する姿勢や態度も重要である。また、大学の講義では教員の主張がある程度出るのはむしろ当然である。「公正な講義として成り立っていない」との意見は全く心外であり、もしそう感じるのであれば、どうして担当教員がそのような意見を述べているのか、様々な文献や資料を読んで学習したうえで、積極的に学生のほうから教員に疑問や反論をぶつけてほしいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、社会人としての基礎的な教養の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣の定着と、学生からの質問を促す方を検討したいと考えている。

学科	栄養学科
氏名	薬師寺 元子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅱ(Aクラス)	1	後期	必修	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>『受講動機』は、必修科目ですので、少数の学生を除いて、ほぼ全員真剣に取り組んだと判断致します。しかし、専門科目である福祉関係の科目の準備が忙しすぎて英語まで手が回らないと言う自由記述が多々見られました。「授業の範囲だけで精一杯」、「他の課題があつて取り組めなかった」、「すべきことが分からなかった」等がありました。授業の実施にあたり大切にしていることは、積極的、且つ、能動的な学習態度を軸と致しました。①まず出席とレポートの提出が肝要であると強調致しました。②次に予習に重点を置くように勧めました。③さらに、予習復習を徹底するためにノートを作り、その使い方を詳細に説明致しました。まず英文をノートに写し、和訳をし、新出単語を調べてくる。これは、一部の学生を除いて、約7割が実行致しました。『授業以外に具体的に取り組んだ学習』の自由記述に、「単語の勉強をした」、「英語の訳を書いた」、「単語の勉強を頑張った」、「解らないところを復習した」、「予習、復習をした」、「ノートをまとめた」とありました。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目では、全員が、標準的レベルに達し、最終的な成績の平均値は100点満点中の84.14点であり、再試対象者は0名でした。80点以上で、理想的なレベルに達したのは、50人名中38名でした。小テストは2回実施致しました。全体の平均点は1回目が、20点満点中18.5点でした。2回目は、12点満点中10.1点でした。2回の小テストにおける、最高の平均点が満点の32点で、最低が17点で、個人差は一般的な結果であると考えます。小テストの様式は穴埋め問題ですので、難易度は、標準的なものを作成いたしました。テキストの『今を生きる心とからだ』をもう少し時間をかけて深遠、且つ、比喩的に説明できれば、もっと、理解が深まるのではないかと判断致します。『学生の到達度自己評価』につきましてははもれなく、肯定的な解答で、(1)自分なりの目標を達成した(96%)。(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た(98%)。(3)事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることが出来た(97%)。(4)自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た(約89%)。(5)自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た(91%)。(9)職業倫理や行動規約(守るべきルールなど)について学ぶことが出来た(89%)。(10)職業選択の参考になった(91%)、と非常に割合が高い結果となっております。授業では、大変苦戦しておりましたが、しっかりと確実に達成された結果となっております。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>カリキュラムマップ上の本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価に関しまして、①CP、本科目は福祉学科の必修科目であります。昨今、グローバル化が進み、英語の発話力が問われてきました。しかしコンピューター時代に入ってしまったため、それ以上に、正確な英語の読解力が求められます。精読により、語彙力、文法力を徹底的に修得することが肝要でありますので、中心的必須科目の位置にあるといえます。学生の本科目に対する到達度自己評価に、「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」、「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることが出来た」、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た」、「職業倫理や行動規約(守るべきルールなど)について学ぶことが出来た」等に関するものが、9割以上を占めていますので、本科目の内容的妥当性は確実であると考えます。②DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しまして学生が達せさすべき行動目標は、「食育と健康のみならず、医療にも関心を持つことが出来る」、「食育、健康、医療というものを、英語を通して、グローバルな視点から捉えることが出来る」、「食育、健康、医療に関する情報を通じて、社会人として基礎的な教養を身に付ける」とこの項目につきましては、教科書、『今を生きる心とからだ』により、知識を広めながら、英文を確実に精読し、内容を理解致しました。これにより、「食育、健康、医療というものを、英語を通して、グローバルな視点から捉えることが出来る」、「食育、健康、医療に関する情報を通じて、社会人として基礎的な教養を身に付ける」という行動目標は達成でき、本科目は適切であると考慮致します。③まとめ、以上から、内容妥当性には全く問題はないと判断致します。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価につきまして、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」では、「まあまあそう思う」と「わりにそう思う」と「かなりそう思う」を合わせると、98%であった。「期間内に行うべき課題は明らかであった」では、98%であった。「説明は理解しやすいものであった」では、91%であった。授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」では、98%であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、其れに答える機会がつけられていた」では、98%であった。以上総合いたしますと、ほとんどが、進め方につきまして、好意的な結果で、一生懸命に取り組んが効果があったと考え、自己の授業の進め方を自負致します。しかし、これに止まらず、「学生アンケート用紙」等を活用したり、学生としっかり意思疎通を図ることによって、学生がいかに、楽しく、興味を持って、英語に取り組むことができるかについて、更に、一層の工夫を凝らす所存でございます。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

授業を振り返ってみると、教科書『今を生きる心と身体』を中心にプリントを毎回準備し、非常に丁寧に、じっくり進めたので「説明が丁寧でわかり易かった」、「小テストの勉強をした」など、効果的な授業を進めることが出来たと考えるが、「日本語訳をいうのが早くてメモがとれなかった」という意見が出ているので、この点を次年度より、十分に心得、学生の様子を観察しながら、対話をしながら効率の良い、授業を進めていくように努力致します。テキストは標準的なものでございましたが、実際は、大変時間が掛かる予習で、専門科目と重複し、苦戦していたと判断致します。次年度は、少し、負担が軽くなるような、学習準備を課すように改めたいと考えます。また、また、学生が具体的に取り組んだ学習と致しまして、「単語を覚えた」、「小テストの学習をした」、「英語を日本語に訳すことをした」、「教科書を読んだ」、「予習、復習をした」が挙げられております。今後は「アンケート」で学生の意見を取り入れたり、「学生一人一人と直接意思疎通」をしっかりと測りながら、学生の英語力の向上を目指して、具体的に、適切なレベルと教材量を検討し、なお一層工夫を凝らした取り組みと改善を実施していきたいと存じます。最後に、情報利用に関しまして、「この授業を履修する際にシラバスの記載を参考にした」の結果が46%の割合しか出ておりませんので、次年度は、この情報をしっかり活用するように、指導していきたいと存じます。

学科	栄養学科
氏名	十時 康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅱ(Bクラス)	1	後期	必修	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は「必修科目である」がほとんどで(97.5%)、初回のアンケートでも「英語は苦手」という声が多かった。そこで、ESP(English for Specific Purpose)の説明をし、専門分野の知識を生かしながら英文を読んでいくことで理解が促進され、テキストで英語を学ぶだけでなく、専門分野の内容も身につけてほしいことを伝えた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>期末試験の平均が50点であったこと、SおよびAを取得した学生が半数弱であったこと、学生による到達度自己評価の点が平均3.3前後に集中していることを踏まえた評価である。</p> <p>期末試験の平均点を見ると、やや物足りない。この点がもう少し改善されればもう少しよい評価を下すことができそうである。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は必修科目であり、該当するDPは「知識・理解」であった。到達度の自己評価でも「知識を確認、修正したり、あらたに得ることができた」という項目で中央値が3、平均が3.4であったことから、内容的妥当性に問題はなかったと判断しているが、満足できる数値ではない。 期末試験の平均も50点ほどであった点からも、上記の評価が妥当であると考えている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

語彙習得に重きをおいていたため、毎回の授業での単語リスト配布に加え、小テストも単語の問題に絞って出題をした。学生の自由記述でも小テストへ向けて単語学習をしたとの回答が多かったが、小テストの平均は16.99点と高いものであった。

食に関する英文を読んだため、専門分野関連の単語も多く扱われていたことから、学生自身も興味をもって取り組んでくれたと思っている。

テキスト自体がESP教材で専門分野の英文を扱っていたせいもあり、テキスト以外の英文の資料などを積極的に提示するには至らなかった。もっと積極的に投げ込み教材の活用を考えていくべき点であろう。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

「知識・理解」というDPの点では、やや課題を残す内容となってしまった。テキストだけではなく、投げ込み教材を活用することによって、専門分野の英文にもっと多く触れる機会を増やすことで、学生自身の「知識が増えた」という実感を増やすことができるのではないかと考えている。

学科	栄養学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英会話B(A前半)	1	後期	必修	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This second term course continued to focus on oral communication, specifically speaking and listening skills. The textbook was Interchange 1 (Cambridge), which included functional and grammatical targets in a variety of contexts. The students engaged in active learning exercises, including dialogue practice, information gap activities, listening challenges, and extensive role plays.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on 4 criteria (passive participation 30%, active participation 30%, homework 20%, and a final test 20%). The majority of assessment criteria focused on showing evidence of incremental improvements in oral communication skills. The majority of students in this course earned a grade in the 80-89 range.</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Students showed progress in their interest and attitude towards English. Students are almost always quite eager to have an opportunity to experience active learning exercises and apply English in real world contexts. The specific skills acquired were both functional, in terms of basic vocabulary use and common grammar patterns, and attitudinal, in terms of new approaches to learning and basic life skills. As a result, students acquired new knowledge and understanding in this course (DP1).</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

My main goal for the next academic year will be to successfully transition the Nutrition Department to the curriculum and textbooks currently used in the English and Tourism Departments. This will include integrating relevant exercises and activities to the new curriculum and creating new assessment tools.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

Improving evaluation and assessment methods requires constant updating to fit changing institutional and faculty objectives, specific course objectives, and the limitations set by class size and individual class dynamics. The following changes take these considerations into account.
Increasing the number of pages in the class workbook devoted to the "Skills" course. Ideally, these pages would match the number of classes in the term (15 pages). Streamlining and improving the use of class workbooks to encourage careful note taking and completion of homework will improve the accuracy of individual assessment and keep students focused on clear objectives for each class.

学科	栄養学科
氏名	L. Dennis Woolbright

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話B(A後半)	1	後期	必修	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>In the second semester of this Oral English course we used the textbook "Four Corners: Book 1", and the focus was on building students skills in English. Each unit of the textbook covered a different topic, and it took 2-3 weeks to complete the units. We worked on vocabulary building, and how to use that vocabulary effectively. We also worked on the four skills of reading, listening, writing, and speaking. In the second semester we focused more on the speaking exercises.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Again this semester students were able to achieve a fairly high level of progress. Students continued to improve in writing simple sentences and by the end of the semester the sentences were noticeably better. Most students could use and respond to classroom English confidently by the end of the final semester.</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Again I believe the course was fully able to accomplish the goal of DP1-1 as the students enjoyed working with each other and have begun to make more progress in making themselves understood in English. They have enjoyed singing English songs and learning about English speaking cultures.</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

More pair work was used this semester and in the future even more would be good. These students are well motivated and attendance was excellent. According to their comments they enjoyed the class.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

The students seemed very interested in English and are motivated to learn. At first they were hesitant to try to use their limited English but after gaining their trust, the students seemed to open up and be more willing to try. In the second semester we hope to make even more progress.

学科	栄養学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話B(B前半)	1	後期	必修	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This was a class of non-English majors in their first year. Levels of the students varied widely from barely functional to reasonably competent (around TOEIC 400 probably). They were a hard working class of students, but because of the level, the textbook "Four Corners - Level 1" was chosen. This textbook is useful as recovery resource, helping students relearn much of what they have forgotten since leaving high school. Class times were spent mainly in the textbook, doing the grammar activities, vocabulary learning, listening exercises, and dialogue practice. We also spent some time doing presentation and skit writing activities to get them familiar with more authentic styles of English.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	This class has one very clear DP outcome goal – increasing knowledge and understanding. To a degree we achieved this goal. Assessment was completed using the following criteria: Classwork and participation (25%), Performance (40%), Attendance (15%), and Final Test (20%). The performance assessment was from two oral presentations, plus regular unit tests. Out of the 25 students, 5 achieved an "S" grade, 15 an "A" grade, and 5 a "B" grade. All students achieved passing grades in this class.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The goal of DP1 was partially achieved. Some students did very well, while others couldn't keep up with the material. There are two hurdles to overcome – one being that none of the students are English majors, so this is a required course that they often have little interest in. The second – related to the first – is that their English level is extremely low in many cases.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Starting in 2016 I am giving the students a lot more scaffolding support. Use of the 531 Active Learning Place gives us more freedom to teach in different ways. We are doing a lot of supplementary activities to help them with the target concepts. We are also doing a lot more vocabulary building with the hope that this will give them more tools to work with. These students are overloaded with homework and assignments from their other courses, so we need to be careful about what is given as self-study.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

No major changes in the next year, though we will focus more on ongoing assessment instead of a large final test.

学科	栄養学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 中国語Ⅱの概要及び達成すべき目標とは、「勉強の継続性を考え、より一層高い講読力、聴取力及び会話力を養うことを教授する。中国語に対し関心を持ち、豊かな表現を楽しみながら、語彙と文型の学習をする」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の100%を除いて、③「関心のある内容である」は50%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数がかなり少ない点については、ほかの専門科目と同じ曜日・時限にならないよう、次年度の時間割調整においても少し考慮していく必要があると考える。 3. 「少人数だから、教員とのコミュニケーションが取れる」という学生の意見から、これからの授業でも、できる限り学生一人一人と会話できる場を増やしていくことができるように工夫したい。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 最終的な成績の平均値は「89.4点」であった。標準的レベルを超えて、理想的なレベル(定期試験及び平常点の総合として85点以上)に達していた。 2. (DP-1)の知識理解をみると、将来の保健・福祉を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週4.5回の準備を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の学習到達度評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は平均点3.5点、また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.5点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

1. 「授業の質の評価」について、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2. 「授業の量」については授業外の学習はほとんどなかったことから、次年度に向けては具体的な課題を提示するよう改善していく。 3. 「図書館やインターネット等の利用」はほとんどないという結果がでていた。授業と関連している知識やデータも重要視すべきであることを学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

1. 中国語Ⅱは選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。

学科	栄養学科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハンゲルⅡ	1	後期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>初級レベルの語学力をつけるのがこの講義の目標であり、前期の「ハンゲル1」に引き続き受講する学生がほとんどであるため授業動機が「関心がある内容のため」が多いのも頷ける。</p> <p>また講義内容の節目に小テストを実施することにより学生に学習状況を認識するようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>平均成績は70.22点であり、再試験に応じた学生の中から落第は一人もいなかった。</p> <p>また到達度自己評価の全項目にわたり平均値が学科平均より高い。また「2.知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が4.0であることからしても所定の成果を得られたと思われる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラム上の位置づけからみた内容の妥当性 多くの学生がシラバスを参考に受講を決め授業の質評価でも学科平均より高い回答が得られたことから、授業が当初の計画通り進み、学生たちの満足度が高かったことが分かる。</p> <p>②DP、行動目標からみた内容の妥当性 教材を用いた予習・復習には時間を割く他にK-popなど自分が興味があるもので学習に取り組んだことが学習量の評価自由記述(4)「授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習」で分かる。シラバスに明記しているように「積極的な姿勢での授業参加」ができたことが分かる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、全項目において高い評価を得られていることから授業進行に問題がなかったと思われる。教材を用いる学習以外のも各自好きな方法で学習を進めているので問題ないと思われる。これからも学生たちが積極的に学習できる素材を紹介しようと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生からの「到達度自己評価」や「授業の質評価」で高い評価が得られたことから学生たちも満足できる講義内容と思われる。これからも韓国語と韓国の文化への理解を深められるよう工夫を重ねていきたい。

学科	栄養学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教職課程科目であるため、全体的に学生の受講動機のレベルは高いと考えられる。ただし、履修人数制限のある学科に比較すると学修への動機付けが高まっているとはいえない。</p> <p>本講義の内容を学校組織という視点からとらえなおすことができるように工夫を行った。養護教諭希望者も含め、特に地域や仲間集団のような教員から見えにくい領域に目を向けてもらえるよう心がけた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった		やや達成されなかった	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>全学科平均(66.1)に対し、栄養学科平均(53.9)であり、平均点が不可という結果であった。秀1名、良1名を除いて、全て可と不可であり、学科全体の成績が不振であった。</p> <p>出席状況を見ると、それほど欠席回数は多くなく、皆勤が3割ある。このことから授業の参加態度に問題があると予想される。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>教職科目であるため、学科DPと直接連動する部分は少ないが、看護技能を生かした専門的職業に求められる資質能力の一部を構成する科目である。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生にとって自己の体験と比較しやすい分野(児童期の仲間集団経験など)と比較し、そうではない分野(社会的発達概念と社会化論の関連など)は理解度が低かった。本授業ではこの部分が導入に相当するため、教育心理学など隣接学問を援用する等工夫を行ったが、興味関心の点で工夫の余地があると考え。教師の立場から一旦離れて教育現象を理解するアプローチに慣れてもらうため、これまで以上に事例検討や統計データとの照合など、先入観を問い直す具体的教材を工夫したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

同じ授業で看護学科とならんで栄養学科の成績が特に不良であった原因がどこにあるのかを考える必要がある。客観的データではないが、授業中に学科の専門教科と思われる勉強をしている者があることから、学科の授業について行けないしわ寄せがあるのか、学生にとっての教職課程の意味が成績のよい学科と異なっているのかといったことが予想される。
いずれにせよ、学修動機に課題が残る結果であったことを踏まえ、より授業に集中してもらえるような教材の工夫とともに、本授業の内容を通じて教職の意義を考えてもらう機会を作りたい。

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校栄養指導論Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、学校栄養指導論Ⅰの内容を踏まえ、小学校、中学校での食に関する指導において、児童・生徒が理解しやすい内容の授業を組み立て、実践につなげる力を身に付けることを目標としている。栄養教諭を取得するために必須であるため、受講動機は必修科目である、資格取得に必要であると回答している。授業計画は、4年次での栄養教育実習にむけて必要な知識や技術を修得できることに重点をおいて実施した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の受講者は2名であり、その内、栄養教諭を取得する学生は1名である。2名のため客観的な評価は困難であるが、最終成績は「理想的レベル(80点以上)」に達し、達成度自己評価では、全てにおいて「そうだと思う」と答えている。成績評価は、筆記試験、模擬授業、提出物で評価した。以上のことより、概ね教育目標は達成されたと考える。しかし、思考判断、技能表現に関しては、小論文や模擬授業により、栄養教諭として理想的なレベルに達しているとは評価できなかったため、この2点に関しては栄養教育実習に向けての課題であると考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の中の「教職に関する科目」に位置づけられている。食に関する指導の学習指導案の作成、児童・生徒へ授業を実践する力を養うために重要な科目である。受講生が2名のため客観的な評価は困難であるが、最終成績は「理想的なレベル(80点以上)」に達しており、学習到達度の自己評価も「そうだと思う」と回答しており、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 本科目は、栄養教諭として栄養教育に必要な、専門的な知識および技術を修得することに評価の重みをおいている。これらを修得するために、栄養教諭として食や健康に関するスピーチを毎時間繰り返し実践することで身に付けることができたと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目は、4年次の栄養教育実習を見据え、食の指導を実践する力を身に付けることを目標としている。そのため、授業内容は、学習指導案の作成や模擬授業の実施、毎時間のスピーチを取り入れる等、体験を通して学習できるようにしている。授業外での個別指導も行い、学生の意見では「授業外に丁寧に指導していただきよかった」との記載があり、今後も授業だけではなく、学生の理解度に合わせ、適宜個別指導を取り入れていきたい。
今年度は科目履修者が少なく、年度により人数の変動のある科目であることから、履修者数や学生の特性に応じて授業方法を検討していきたいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は、履修者数が2名であり、授業評価からは客観的な評価はできないが、概ね教育目標は達成されたと考える。課題は、栄養教諭としての表現力や思考判断力が理想的レベルに達していなかったため、次年度は改善に向けて検討していきたい。

学科	栄養学科
氏名	大黒 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育相談(カウンセリングを含む。)	2	後期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>授業の実施にあたり、大切にしていること:教科書的に教育相談の基礎知識を与える事も大切である。しかし、それだけではなく、より実践的な内容の授業にしたかったので、私がスクールカウンセラーという仕事を通して学んだ事、子どもや保護者の現状、現場職員の様子などを伝えるように心がけた。したがって、演習問題の中に事例も多く含み、講義を聞くだけの授業ではなく、「考えさせる」授業を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学習到達度自己評価の結果を見ると、最も高い項目は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つ事ができた」で、3.5～4.4ポイントで、中央値を上回る得点だった。インターネットを使った授業は行わなかったものの、自由記述の中には、「新聞を読むようになった」「詳細な内容を調べるようになった」といった、自発的、積極的に学習を行う生徒もいた。また、学習量の評価として、「ボランティア活動で高校生と触れ合う」学生もおり、教育相談についてより積極的に理解しようとする態度を形成していた。思考判断については、授業内で事例検討を行い、「もしあなたが養護教諭として保護者から相談を受けたら、どのように対応するか」といった演習問題を行い、養護教諭としての判断力を向上させる取り組みを行った。その演習については学生のほとんどが、中学校や高校の現状を知らない為に、大変役に立ったという意見を頂いた。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学習到達度自己評価の結果を見ると、最も高い項目は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つ事ができた」で、3.5～4.4ポイントで、中央値を上回る得点だった。インターネットを使った授業は行わなかったものの、自由記述の中には、「新聞を読むようになった」「詳細な内容を調べるようになった」といった、自発的、積極的に学習を行う生徒もいた。また、学習量の評価として、「ボランティア活動で高校生と触れ合う」学生もおり、教育相談についてより積極的に理解しようとする態度を形成していた。思考判断については、授業内で事例検討を行い、「もしあなたが養護教諭として保護者から相談を受けたら、どのように対応するか」といった演習問題を行い、養護教諭としての判断力を向上させる取り組みを行った。その演習については学生のほとんどが、中学校や高校の現状を知らない為に、大変役に立ったという意見を頂いた。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

受講動機を見ると、資格取得の為に必要であると回答している生徒がほとんど(76.9~90.9%)である。そのことから、この講義の重要性が伺える。いじめや不登校、非行問題等、学校内では様々な問題が起こっており、養護教諭を目指す学生はこの講義を受ける事によって、学校の現状を知ることができるように工夫した。以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

教育相談の授業では①基礎知識の獲得、②応用力(事例解決の思考判断)、また③実技(カウンセリング能力)を学ばなければならない。受講する学生が多いので③の実技については思う様に時間が取れないのが現状である。次年度は、カウンセリング能力を向上させるために、ロールプレイやカウンセリングの練習の時間も作りたいと思う。